

時事経済情報

No. 90

2022年10月25日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

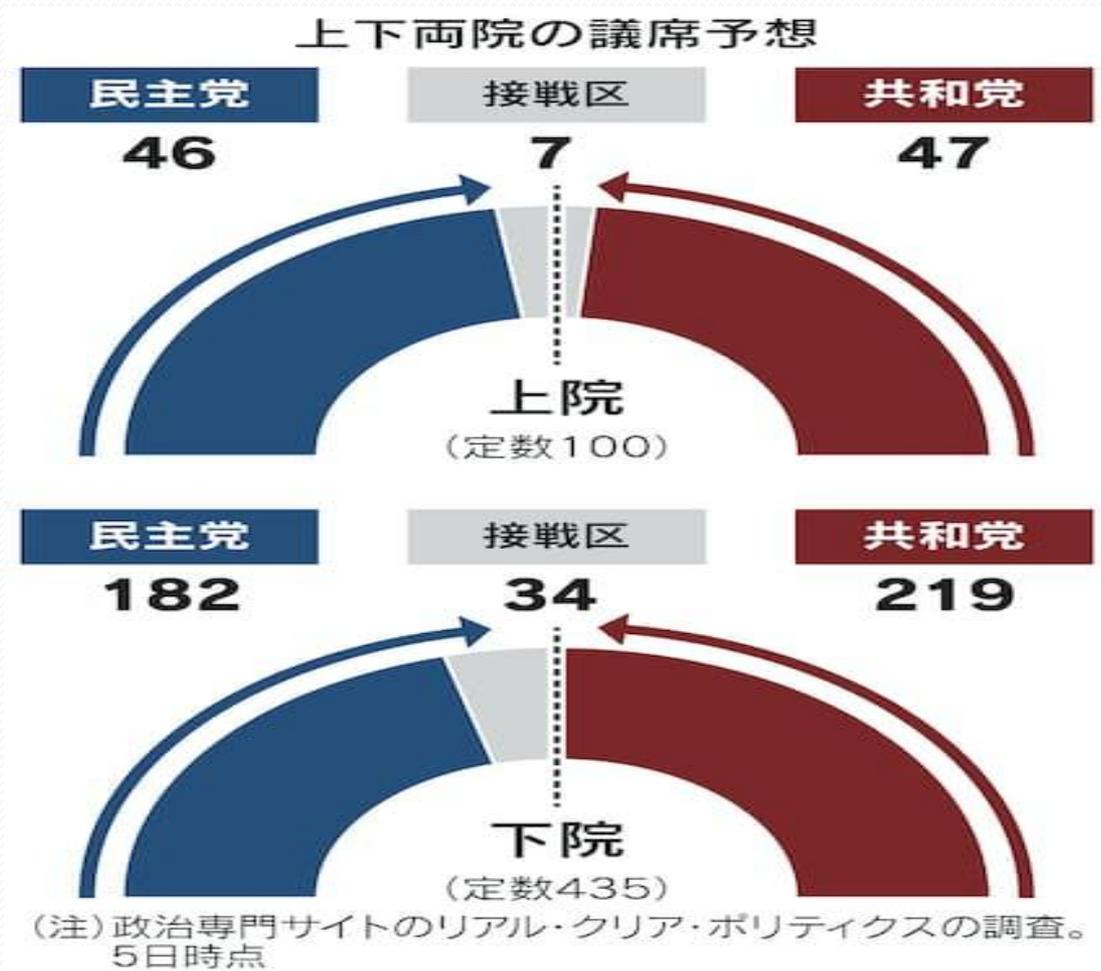
中島精也

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向

I 米⼁国⾵⾵

1. 米中間選挙で上院は拮抗、下院は共和党優勢予想



2. 米GDP4～6月期は2期連続のマイナス成長

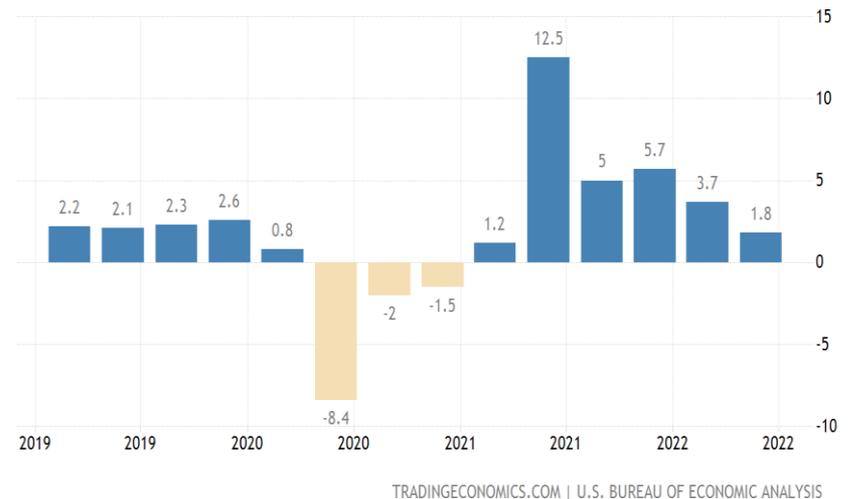
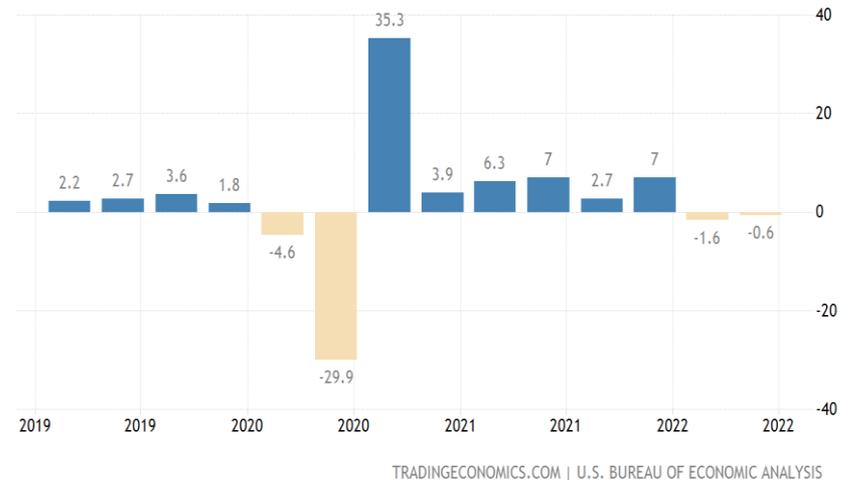
①4～6月期の実質GDP(三次推計)は前期比▲0.6%(前期比年率、右上図)と2四半期連続のマイナス成長。金利上昇が消費、投資の足かせ。前年比は+1.8%(右下図)。

②4～6月期の内需の寄与度は▲1.74%、外需の寄与度は+1.16%。

③個人消費の伸びは+2.0%(モノ▲2.6%、サービス+4.6%)で寄与度は+1.38%。設備投資は+0.1%で前期の+7.9%を大きく下回り、寄与度は+0.01%。住宅投資の伸びは▲17.8%、在庫投資の寄与度は▲1.91%、政府支出の伸びは▲1.6%(連邦▲3.4%、地方▲0.6%)で寄与度は▲0.29%。

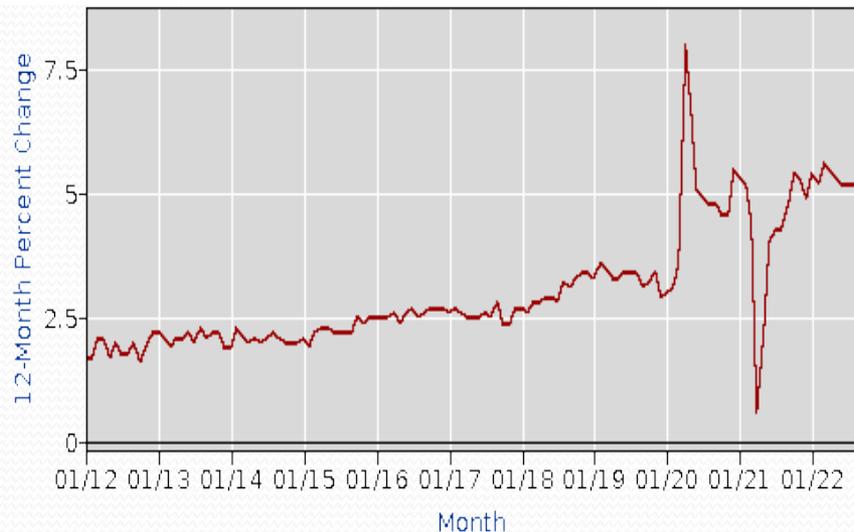
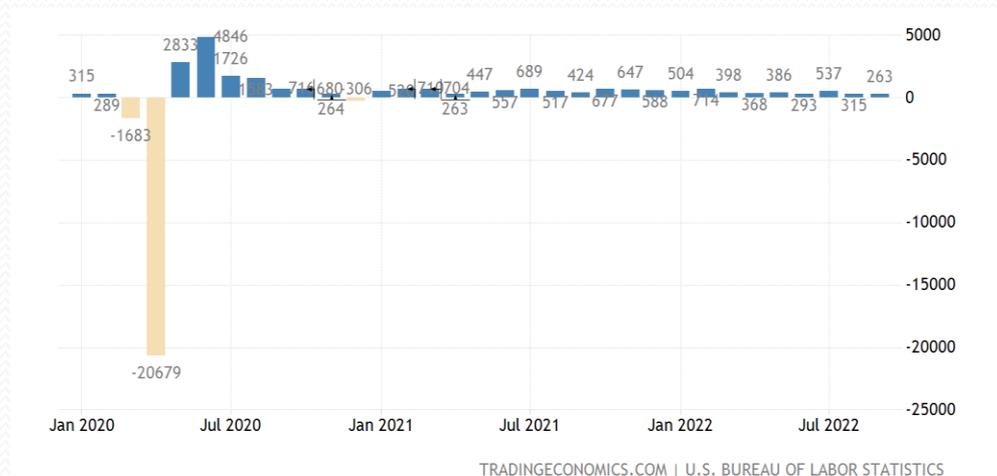
④輸出の伸びは+13.8%、輸入は+2.2%。

⑤名目GDPの伸びは+8.5%、GDP物価指数は+9.0%。インフレ加速が名目GDPを膨らませている。



3. 米雇用者数は安定した増加が続く

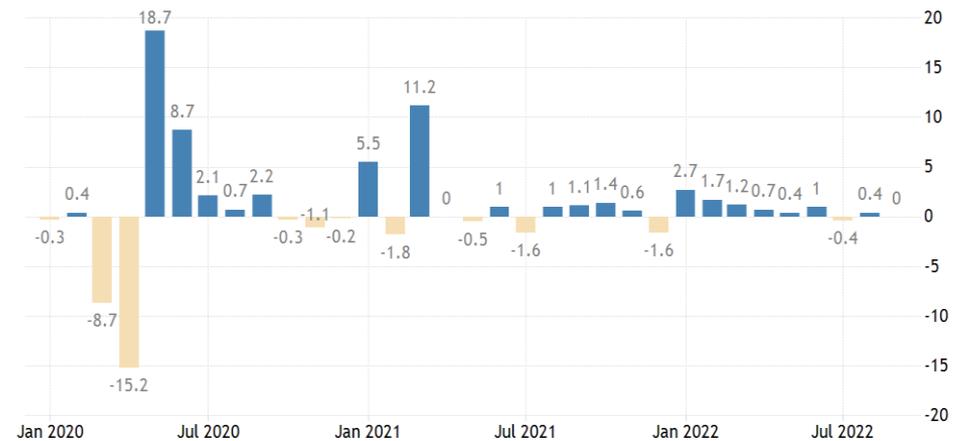
- ①9月の雇用者数の前月比(右上図)は+26.3万人の増加で事前予想とほぼ同じだった。
- ②業種別はレジャー・接待業+8.3万人、ヘルスケア+6.01万人、専門・ビジネスサービス+4.6万人。
- ③失業率は3.5%で前月より▲0.2ポイント低下。労働参加率は62.3%と▲0.1ポイント低下。
- ④時間当たり賃金は前月比+10セント上昇して32.46ドルに、前年比(右下図)は+5.0%と前月比▲0.2ポイントの低下。



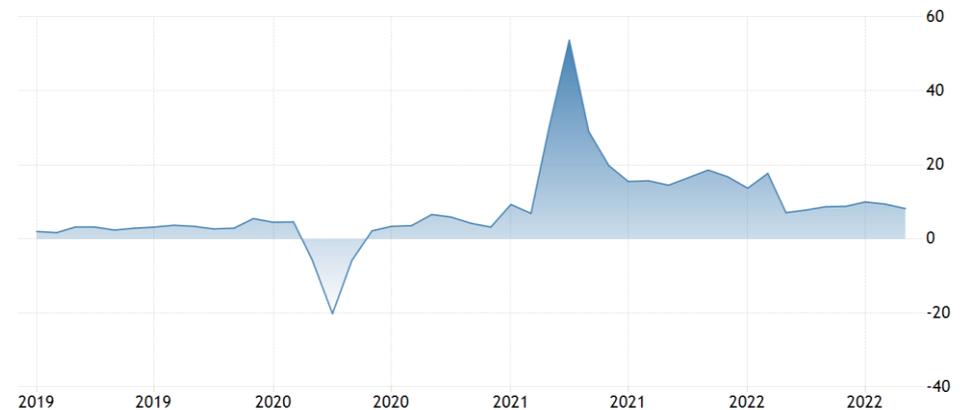
4. 米国の小売売上高は堅調推移

①9月の小売売上高は前月比(右上図)
0.0%、前年比(右下図)は+8.2%。

②業種	前月比	前年比
自動車	▲0.4%	+5.6%
家具	▲0.7%	+0.9%
電気製品	▲0.8%	▲8.6%
建設資材園芸用品	▲0.4%	+9.7%
食料品店	+0.4%	+6.4%
健康ケア	+0.5%	+4.3%
ガソリンスタンド	▲1.4%	+20.6%
衣服アクセサリー	+0.5%	+3.1%
スポーツ用品・趣味 ・書籍・音楽	▲0.7%	+3.7%
総合スーパー	+0.7%	+3.7%
無店舗販売	+0.5%	+11.6%
飲食業	+0.5%	+11.4%
合計	0.0%	+8.2%



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

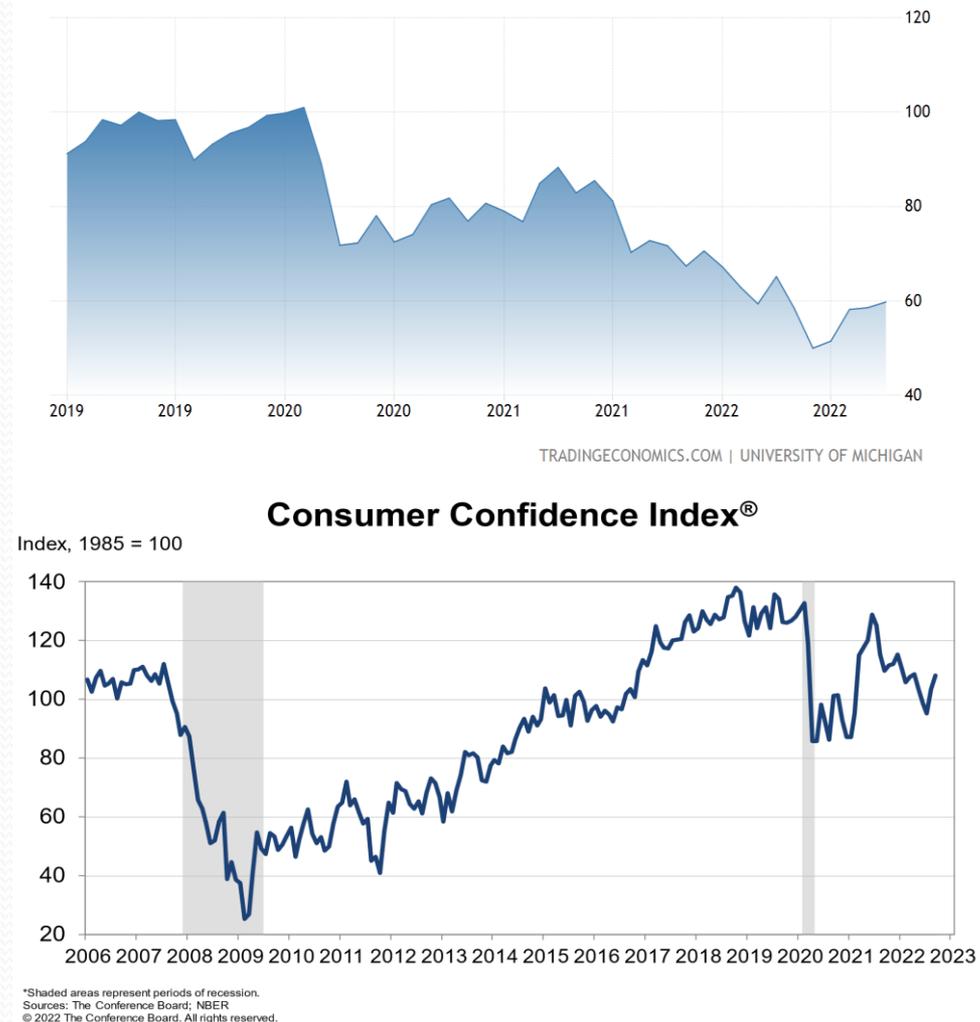


TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

5. 米消費者信頼感指数は模様ながめ

①10月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、59.8で前月比+1.2ポイントの上昇。現状指数は59.7から65.3に上昇、期待指数は58.0から56.2に低下。

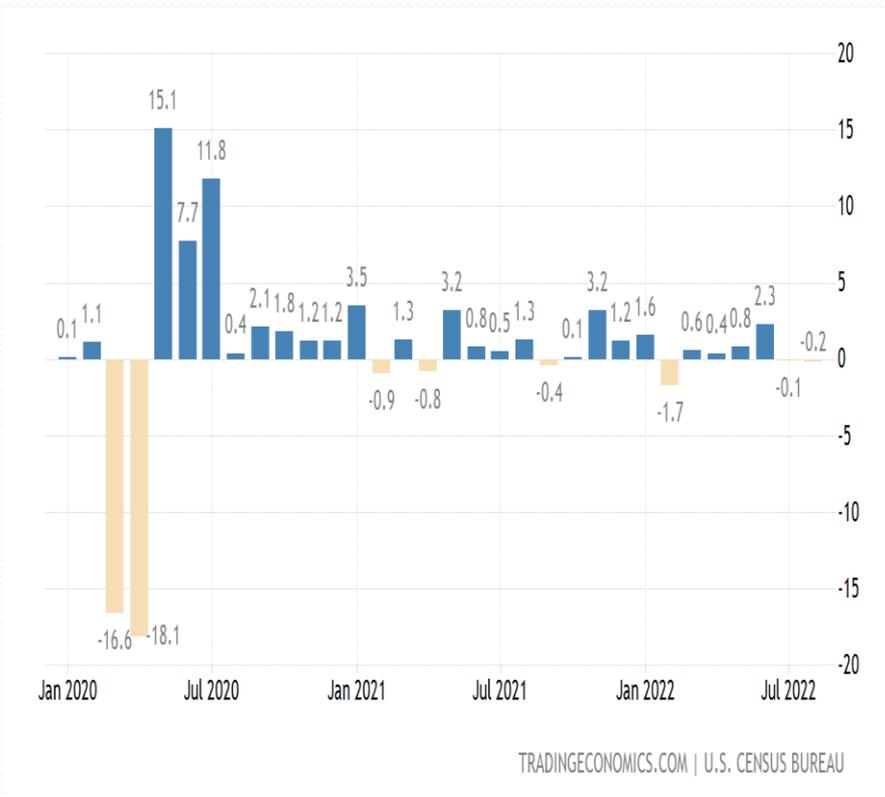
②9月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は108.0で前月比+4.4ポイントの上昇。現状指数は8月145.3→9月149.6に上昇、期待指数は8月75.8→9月80.3に上昇。



6. 米耐久財新規受注は堅調な推移が続く

①8月の耐久財新規受注(速報)は前月比(右図)▲0.2%、前年比は+11.2%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比+0.2%、前年比+7.7%、国防を除く耐久財新規受注は前月比▲0.9%、前年比+9.7%

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比+1.3%、前年比+9.8%。

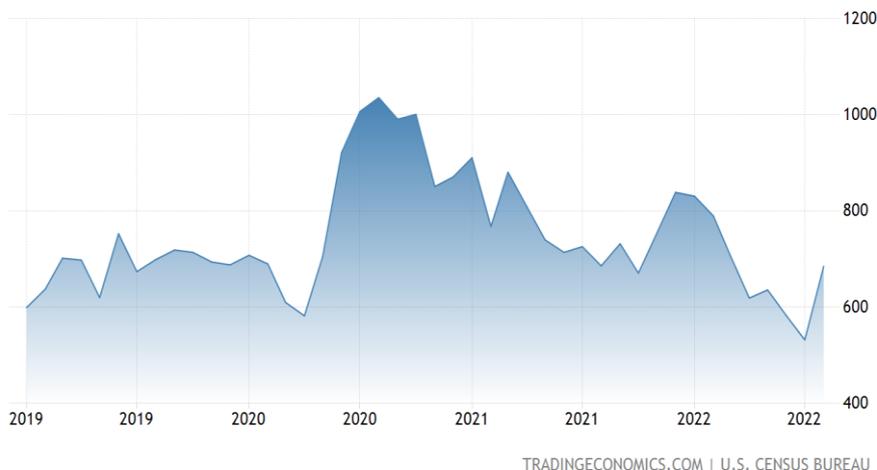


7. 米住宅金利上昇加速が住宅の足かせ

①9月の米住宅着工戸数は年率143.9万戸（右上図）、前月比は▲8.1%、前年比は▲7.7%と弱い。住宅ローン金利は6.94%と引き続き2002年以来の高い水準。一戸建は前月比▲4.7%、前年比は▲18.5%、集合住宅（5件以上）は前月比▲13.1%、前年比は+16.5%。地域別では前月比、前年比で北東部▲12.5%、+15.7%、中西部▲2.7%、▲10.8%、南部▲13.7%、▲8.8%、西部+4.5%、▲11.2%。

②7月のケースシラー住宅価格指数（全米）は前月比▲0.3、前年比+15.8%。

③8月の新築住宅販売戸数（右下図）は年率68.5万戸、前月比+28.8%、前年比▲0.1%。地域別前月比、前年比は北東部+66.7%、▲21.9%、中西部+16.7%、+5.0%、南部+29.4%、+10.4%、西部+27.5%、▲24.0%。販売在庫比率は8.1ヶ月と前月より▲2.3ヶ月低下。



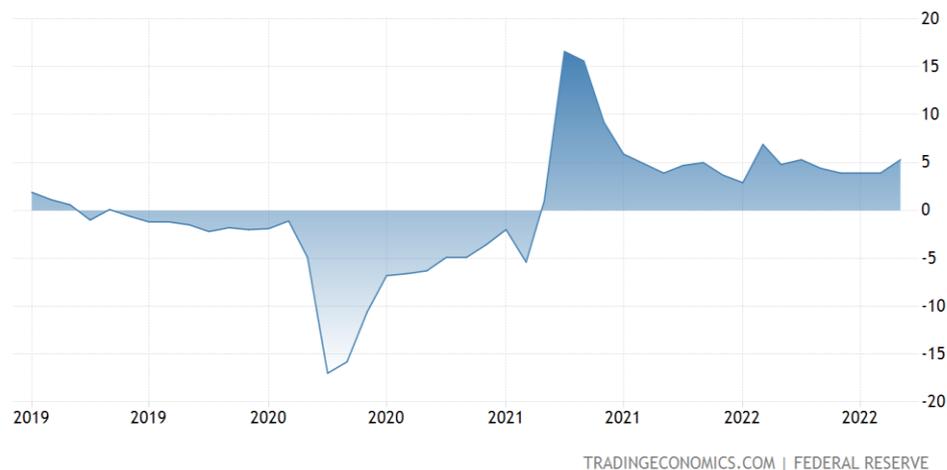
8. 米鋳工業生産は堅調な伸びが続く

①9月の鋳工業生産指数は前月比+0.4%（右上図）。前年比は+5.3%（右下図）。

②鋳業の前月比は+0.6%、前年比は+11.1%、公益事業の前月比は▲0.3%、前年比+0.5%。

③製造業の前月比は+0.4%、前年比は+4.7%。うち自動車及び部品はそれぞれ+1.0%、+19.4%、コンピュータ・電子機器は+1.1%、+1.9%、航空機は+0.6%、+9.2%、金属製品+1.0%、+5.0%、食料・飲料・タバコ+0.6%、+3.3%、化学は+0.3%、+4.4%。

④設備稼働率指数（製造業）は80.0と前月比+0.3ポイント。長期平均78.2を+1.8ポイント上回る。



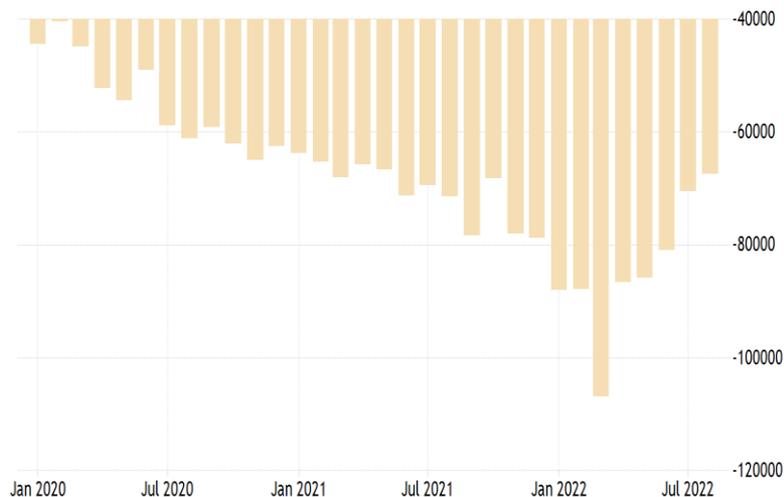
9. 米貿易収支は輸入減少で赤字が縮小傾向

①8月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は▲674億ドルと前月比+31億ドルの赤字縮小。

②財・サービス輸出(右上図)は前月比▲7億ドルの2,589億ドル(前年比+20.0%)。前月比で工業用原材料▲22億ドル、自動車・部品▲11億ドル、消費財+13億ドル。

③財・サービス輸入(右下図)は前月比▲37億ドル減少の3,263億ドル(前年比+13.6%)。前月比で工業用原材料▲47億ドル、資本財▲11億ドルの減少。

④対中輸出は129.07億ドルで前年比+14.8%、対中輸入は503.49億ドルで前年比+17.4%。



TRADINGECONOMICS.COM | BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS (BEA)



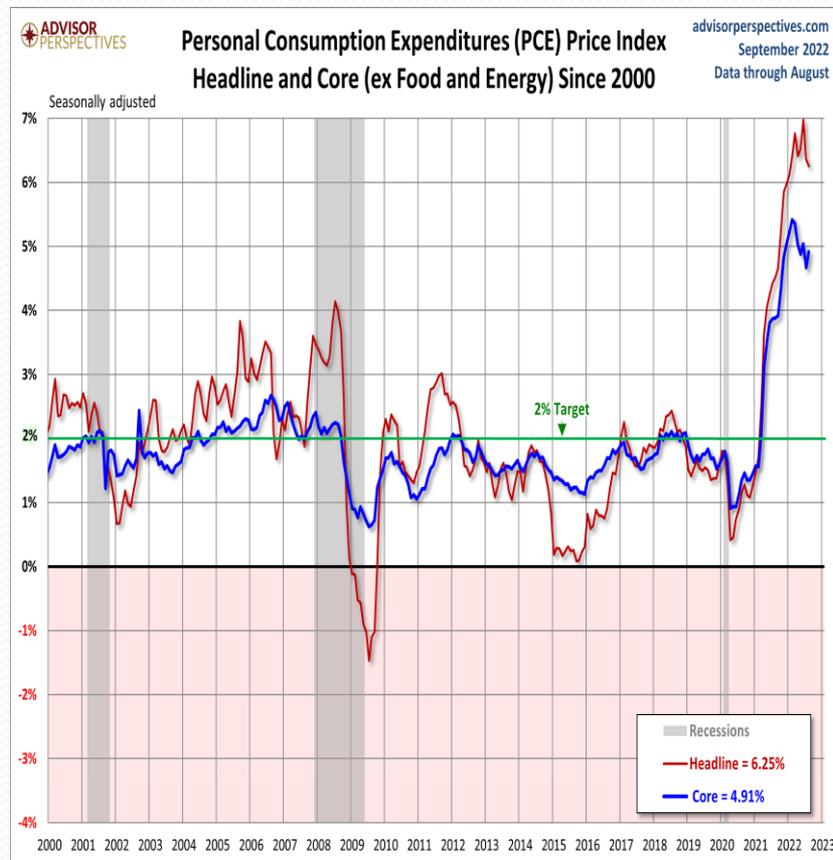
TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

10. 米PCE物価指数の伸びは高止まり

- ①8月のPCE (個人消費支出) 総合物価指数の前年比 (右図赤線) は+6.2%と前月より▲0.2ポイント低下。前月比は+0.3%。
- ②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比 (右図青線) は+4.9%と前月より+0.2ポイント伸びが上昇。Fedの物価目標2%を依然大きく上回る。前月比は+0.6%。
- ③財価格の前年比+8.6%、前月比は▲0.3%、サービス価格の前年比は+5.0%、前月比は+0.6%。エネルギー価格の前年比は+24.7%、前月比は▲5.5%。
- ④期待インフレ率指標 (BEI) は10月24日時点で10年物は前月の2.4%から2.6%に上昇、5年物は前月の2.4%から2.7%に上昇

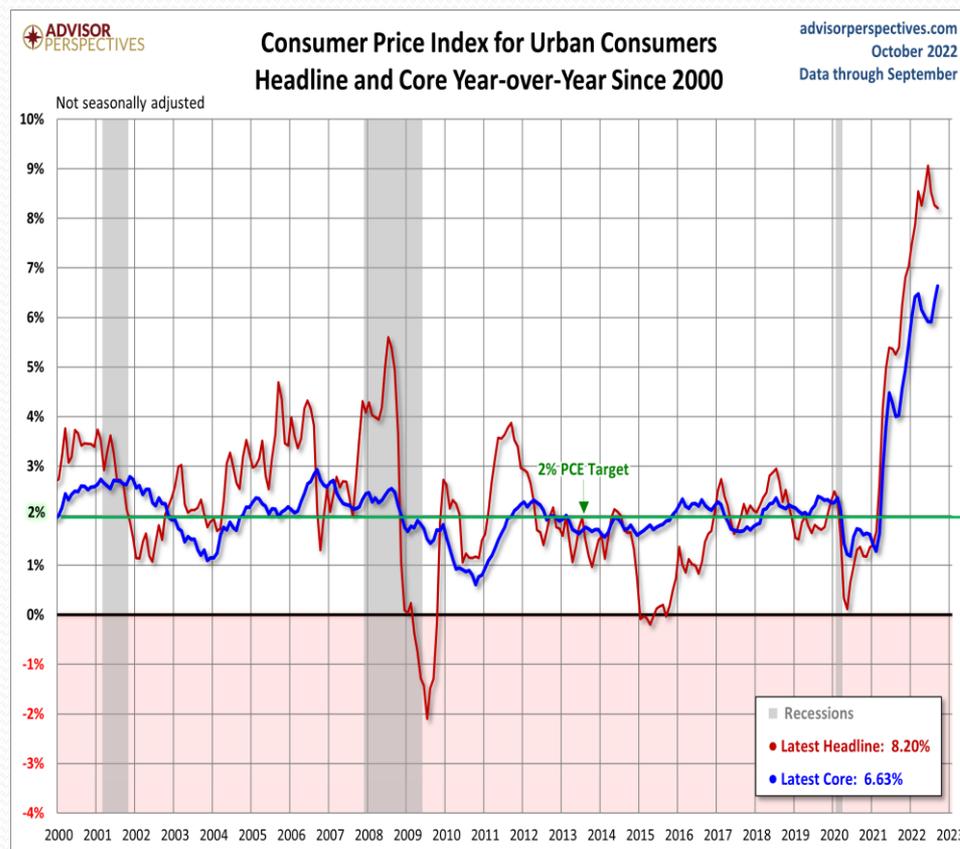


11. 米消費者物価の伸びは8%台で高止まり

①9月のCPI(消費者物価指数)総合の前年比(右図)は+8.2%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下したが、市場予想の+8.1%を上回った。前月比も+0.4%の伸びで、市場予想の+0.2%を上回ったことから、Fedの大幅利上げが続くとの見通しが強まる

②エネルギーの前年比は+19.8%(うちガソリン+18.2%、燃料油+58.1%、電気+15.5%、都市ガス+33.1%)、前月比は▲2.1%(うちガソリンは▲4.9%、燃料油は▲2.7%、電気+0.4%、都市ガス+2.9%)。

③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比(右図青線)は+6.6%と前月より+0.3ポイント伸びが高まる。前月比は+0.6%。



12. 米製造業PMI指数は下降トレンド

①米サプライマネジメント協会 (ISM)
の9月製造業PMI指数(右図赤線)は50.9
と前月比▲1.9ポイント。項目別前月
比では

新規受注▲4.2ポイント

生産+0.2

雇用▲5.5

供給者納入▲2.7

在庫+2.4

顧客在庫+2.7

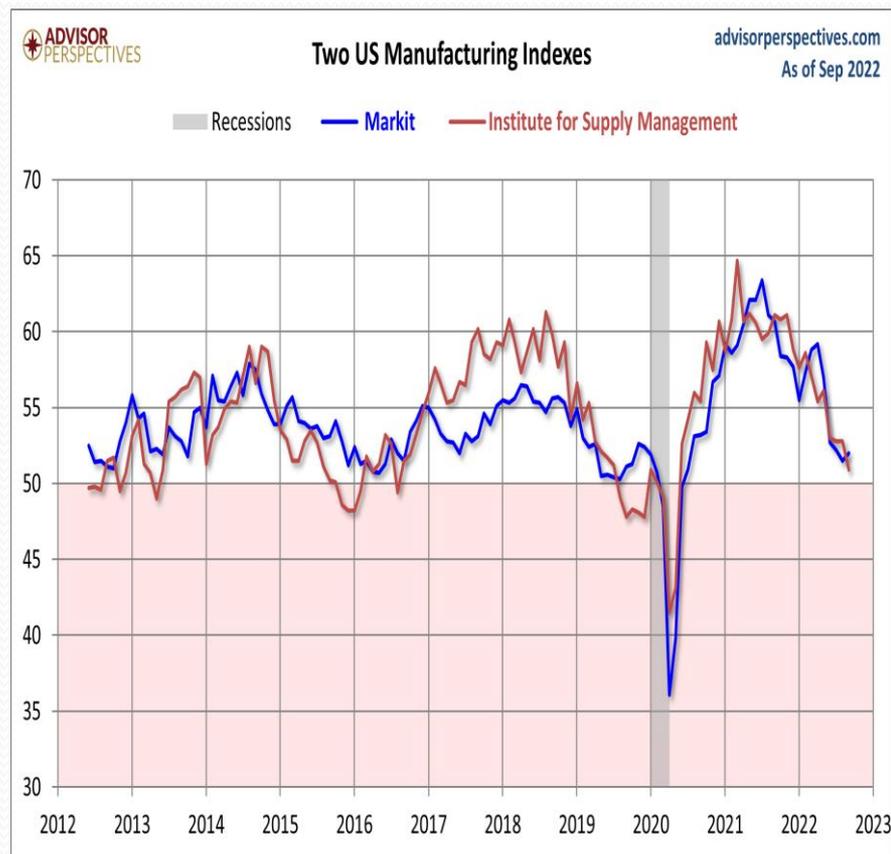
価格▲0.8

受注残▲2.1

新規輸出受注▲1.6

輸入+0.1

②9月Markit製造業PMI指数(右図青線)
は52.0と前月比+0.5ポイントの上昇





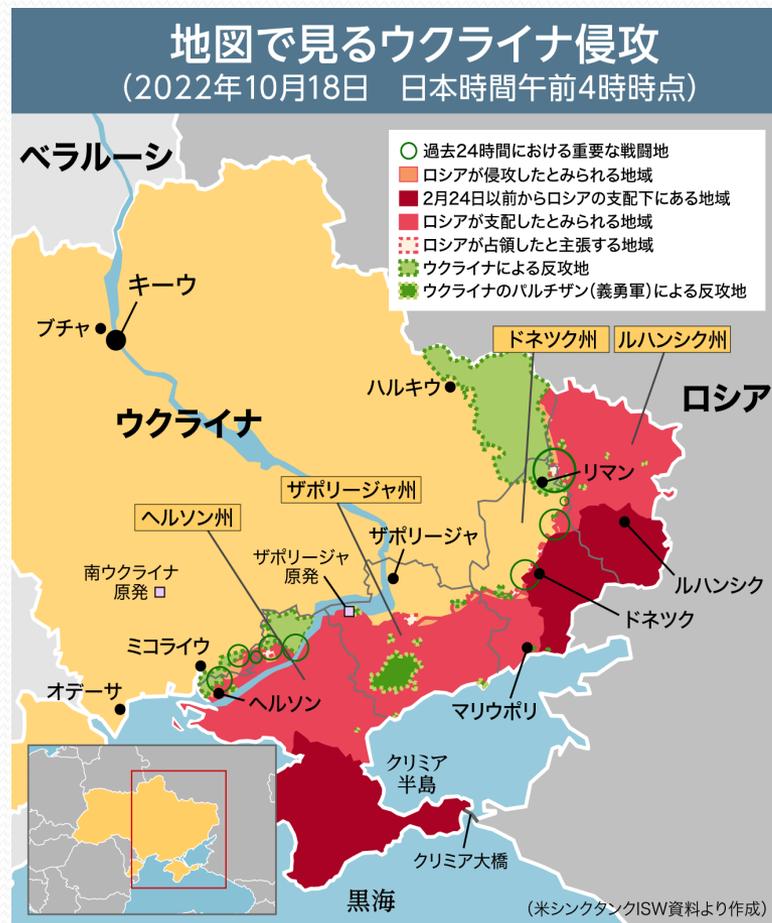
II 欧州經濟

1. ロシアがウクライナ4州を併合

- ①9月31日にプーチンはウクライナ4州（ドネツク、ルハンシク、ザポリージャ、ヘルソン）の併合を一方的に宣言した(写真)。
- ②しかし、ウクライナ軍の反撃でプーチンは4州で戒厳令の導入に踏み切った。



2. ウクライナ軍がヘルソン州で反撃南下



3. イタリアで右派3党連立政権誕生

イタリアで3党連立政権誕生。メローニ党首(新首相、写真右)の極右政党「イタリアの同胞(FDI)」、サルビーニ党首のポピュリスト右派政党「同盟」、ベルルスコーニ党首(写真左)の中道右派「フォルツァイタリア(頑張れイタリア)」。サルビーニもベルルスコーニも個性が強すぎるので早期の連立破綻の可能性。



4. トラス英首相辞任、後任にスナク前財務相が就任

①就任したばかりのトラス英首相(右上写真)は大型減税策の失敗でポンドが暴落したこと、クワーテング財務相を更迭して責任を押し付けたことから、求心力を失くし、10月20日に辞任を表明した。



②後任として先の党首選挙で敗れたスナク前財務相(右下写真)が10月24日保守党党首に選ばれ、次期首相に就任することになった。



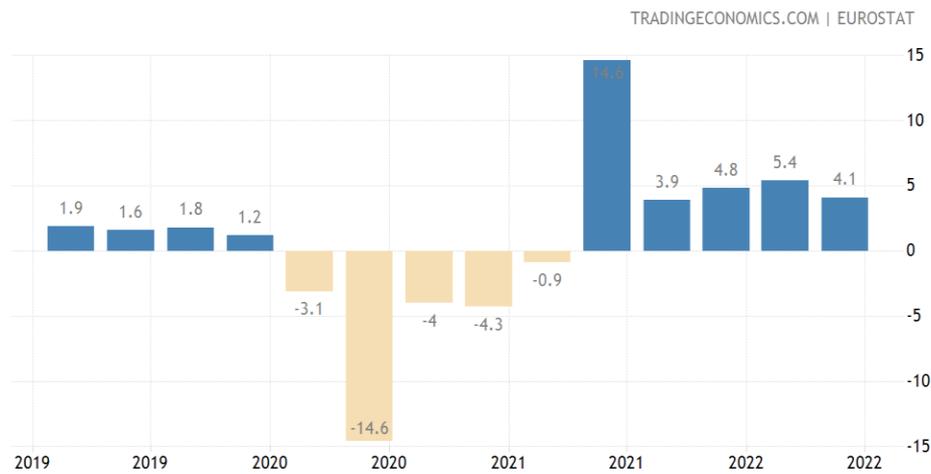
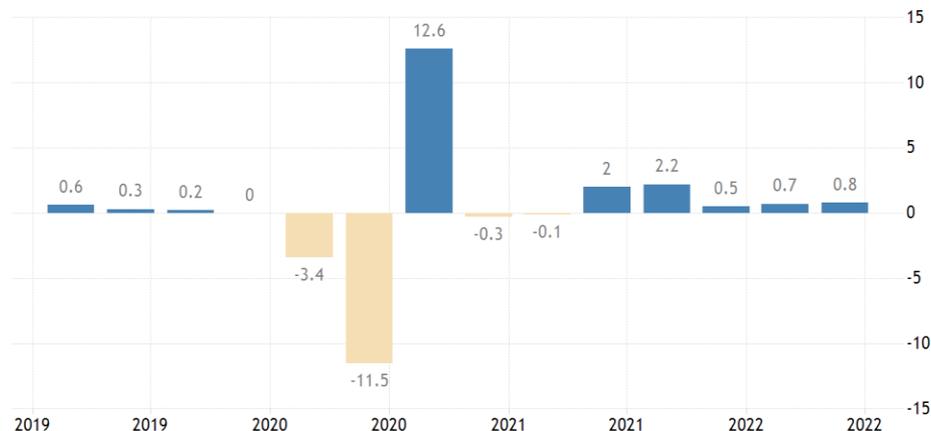
5. ユーロ圏のGDPは4～6月期も回復続く

①4～6月期のユーロ圏GDPは前期比(右上図)+0.8%、前年比(右下図)は+4.1%。

②前期比で独+0.1%、仏+0.5%、伊+1.1%、スペイン+1.1%、ポルトガル0.0%、オーストリア+1.5%、ベルギー+0.2%、オランダ+2.6%。

③前年比で独+1.7%、仏+4.2%、伊+4.7%、スペイン+6.3%、ポルトガル+7.1%、オーストリア+6.2%、ベルギー+3.3%、オランダ+5.3%。

④BREXITした英国は前期比▲0.1%、前年比+2.9%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

6. ユーロ小売売上高はインフレ加速で減少

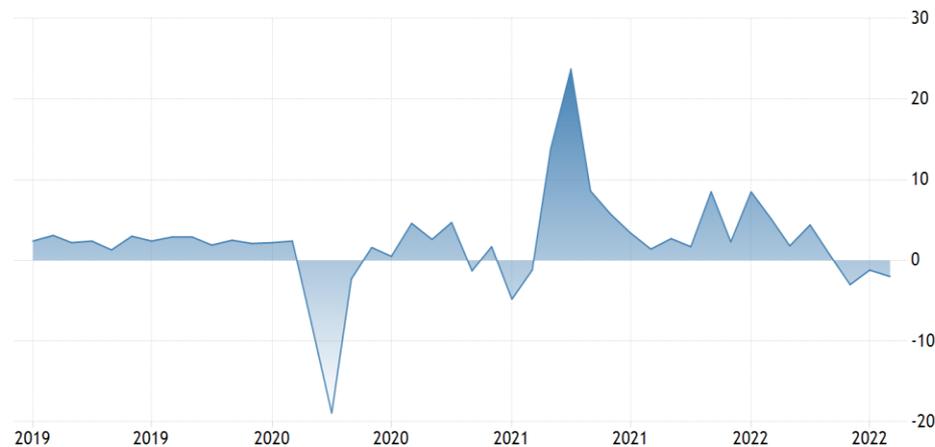
①8月のユーロ圏小売売上高(数量ベース、季調済)は前月比▲0.3% (右上図)、前年比(右下図)は▲2.0%。物価上昇加速で需要が抑制されている。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ▲0.8%、非食料製品+0.2%(うち通信販売・インターネット▲3.8%)、自動車燃料+3.2%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲2.0%、非食料製品▲3.0%(うち通信販売・インターネット▲6.0%)、自動車燃料+5.1%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



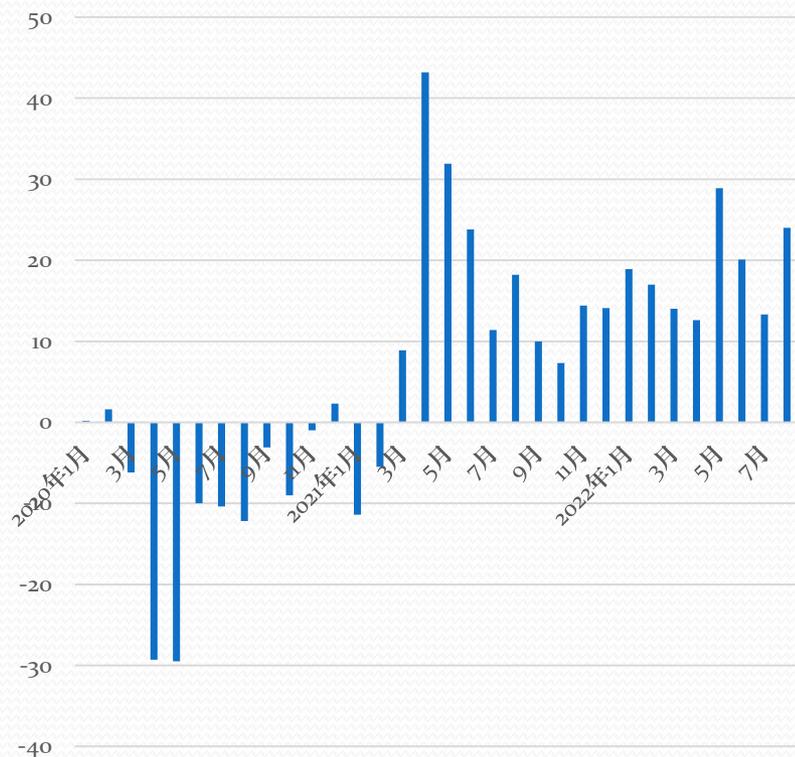
TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

7. ユーロ圏の輸入の伸びが輸出を大きく上回る

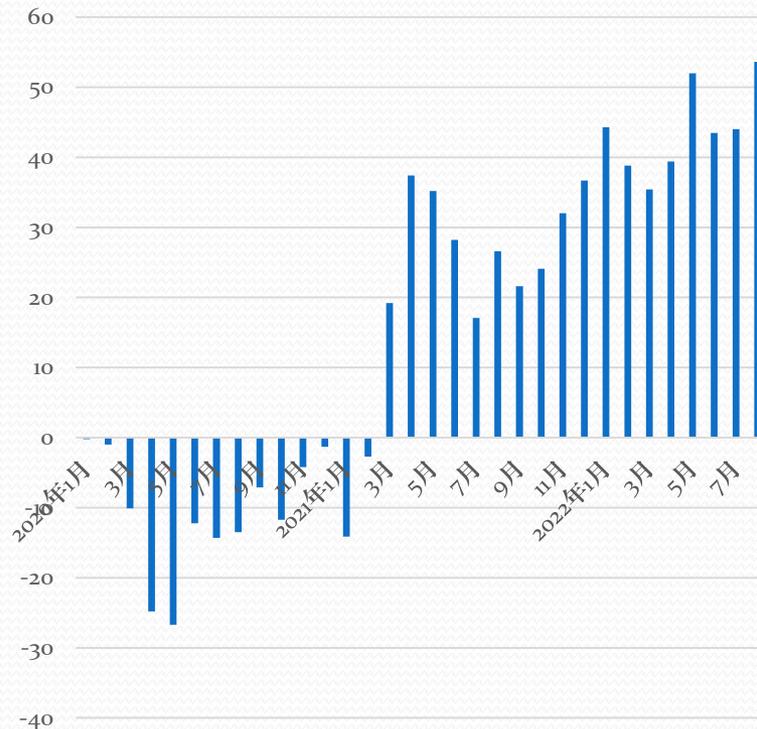
①8月の輸出の伸びは前年比+24.0%

②8月の輸入の伸びは前年比+53.6%

ユーロ圏の輸出の推移(前年比、%)

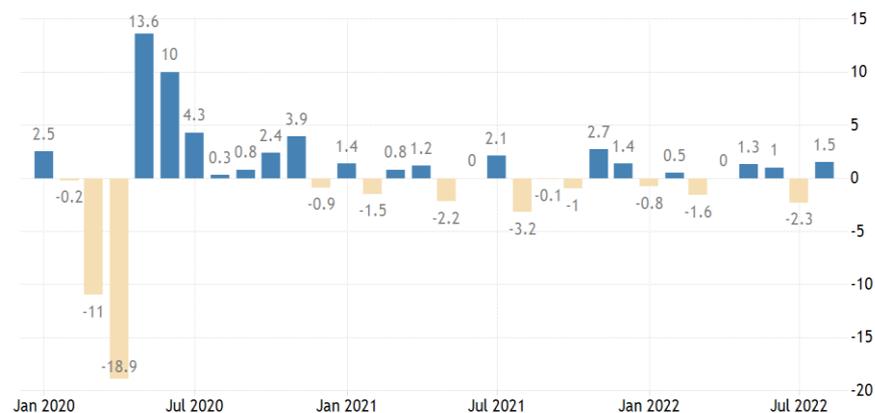


ユーロ圏の輸入の推移(前年比、%)

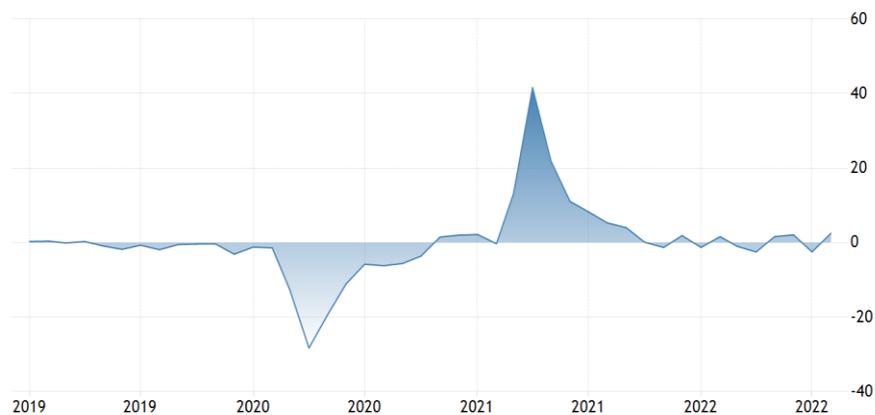


8. ユーロ圏の鉱工業生産は一進一退の動き

- ①8月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)+1.5%、前年比(右下図)は+2.5%。
- ②項目別の前月比は中間財▲0.5%、エネルギー▲2.1%、資本財+2.8%、耐久消費財+0.9%、非耐久消費財+0.7%。
- ③前年比では中間財▲0.5%、エネルギー▲2.9%、資本財+8.2%、耐久消費財+7.0%、非耐久消費財+0.4%。
- ④国別の前月比ではドイツ▲0.5%、仏+2.5%、スペイン+0.5%、ポルトガル+2.9%、オランダ▲1.5%、デンマーク▲+4.3%、オーストリア+2.7%。
- ⑤前年比ではドイツ+2.4%、仏+0.8%、スペイン+5.4%、ポルトガル+4.1%、オランダ+1.6%、デンマーク+14.1%、オーストリア+5.2%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

9. ユーロ圏の失業率は緩やかな低下続く

①8月のユーロ圏失業率(右図)は6.6%と前月と変わらず、前年同月より▲0.9ポイント低下。

②最低はチェコの2.4%、最高はスペインの12.4%。

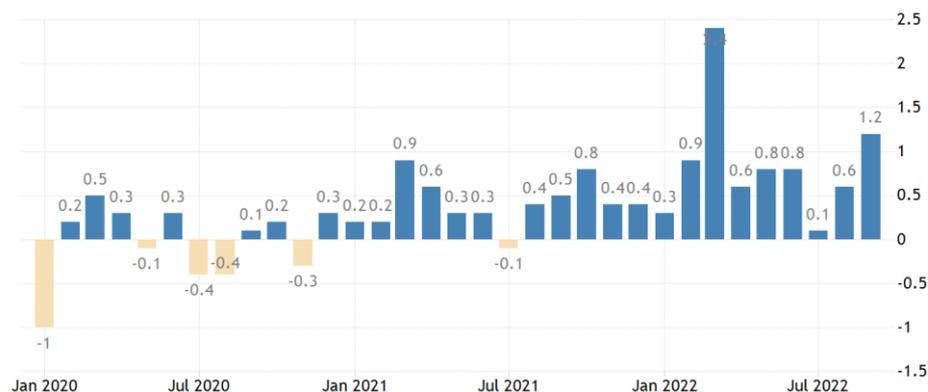
③前年8月との比較では独3.5%→3.0%、仏7.8%→7.3%、伊9.1%→7.8%、オランダ4.2%→3.8%、スペイン14.6%→12.4%、オーストリア5.9%→5.2%、ポルトガル6.3%→6.0%、アイルランド5.5%→4.3%。

④英国の失業率は3.5%と前月より▲0.1ポイント低下(英国統計局)。



10. ユーロ圏のインフレ率は9.9%に上昇

- ①9月のユーロ圏消費者物価(CPI)の前年比(右下図)は+9.9%、前月比は+1.2%(右上図)
- ②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+4.8%、前月比は+1.0%。
- ③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは7月+9.8% →8月+10.6%→9月+11.8%。エネルギーは+39.6%→+38.6% →+40.7%。非エネルギー工業製品は+4.5%→+5.1%→+5.5%。サービスは+3.7%→+3.8%→+4.3%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

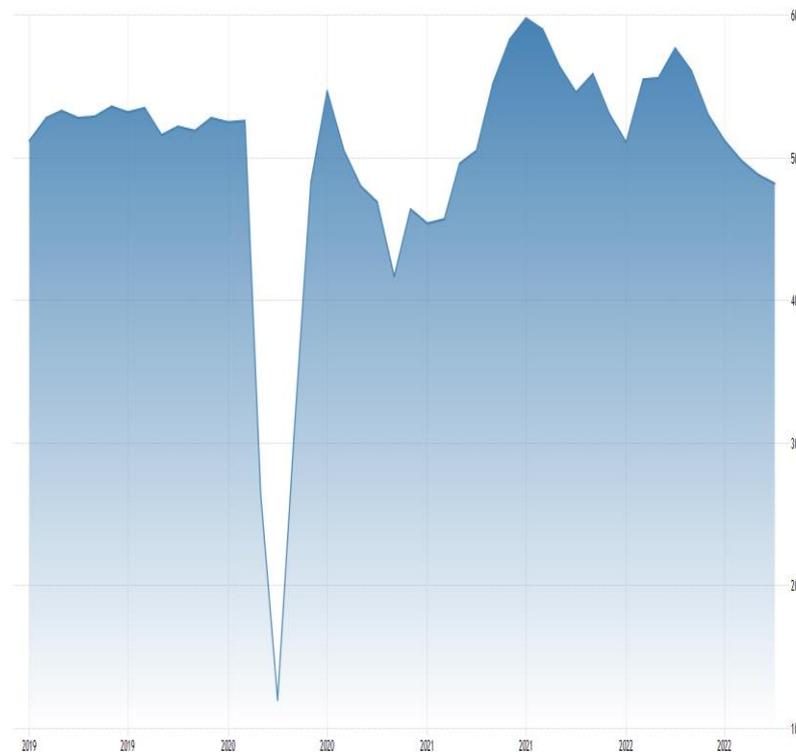


TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

11. ユーロ圏のPMIは下降トレンド

①製造業PMIは9月48.4→10月46.6

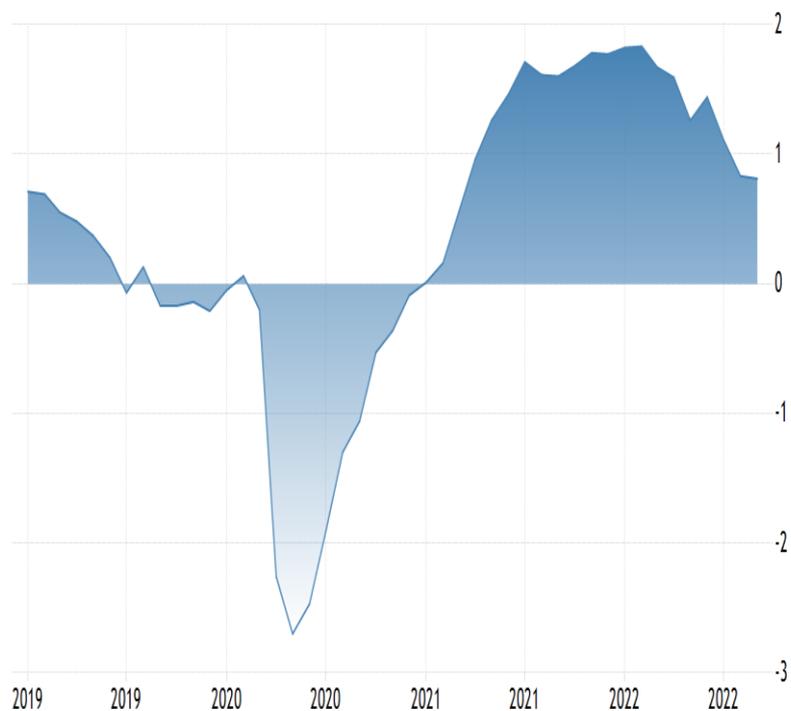
②サービス業PMIは9月48.8→10月48.2



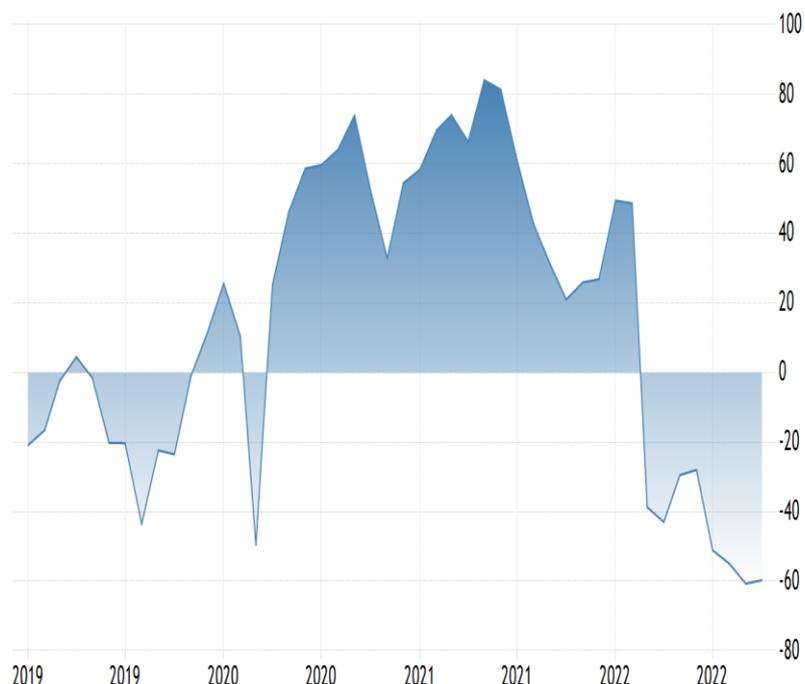
12. ユーロ圏景況感指数は下降続く

①9月のユーロ圏業況指数 (EU委員会) は +0.81で前月比▲0.02ポイント低下。

②10月のユーロ圏ZEW景況感指数は前月比+1.0ポイント上昇して▲59.7



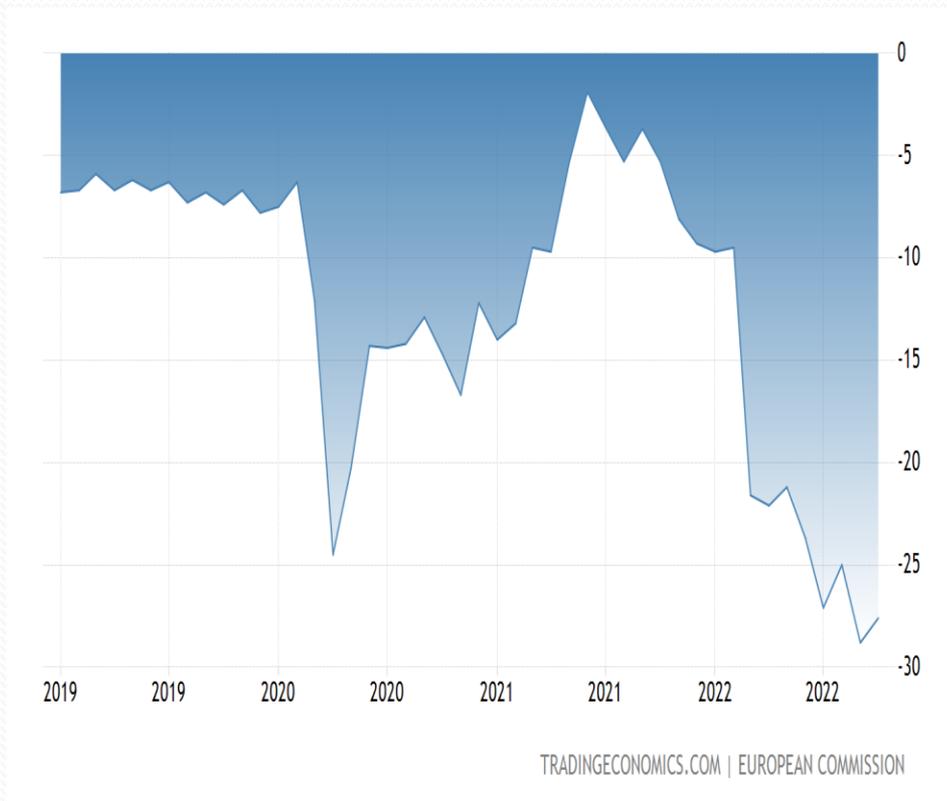
TRADINGECONOMICS.COM | EUROPEAN COMMISSION



TRADINGECONOMICS.COM | CENTRE FOR EUROPEAN ECONOMIC RESEARCH (ZEW)

13. ユーロ圏消費者信頼感指数は底値圏の推移

欧州委員会が発表した10月のユーロ圏消費者信頼感指数(右図)は前月より+1.2ポイント改善して▲27.6。



III 中国經濟

1. 習近平総書記の異例の3期目続投が決まる

中国・新「最高指導部」の顔ぶれ 留任 新任 0テレ NEWS

※役職は現職

習近平 (69)
国家主席(党総書記)
序列① “異例”の三期目

李 強 (63)
上海市党委書記
序列② 次期首相と報道も

趙楽際 (65)
党中央規律検査委書記
序列③ 留任

王滬寧 (67)
党中央書記局常務書記
序列④ イデオロギー担当

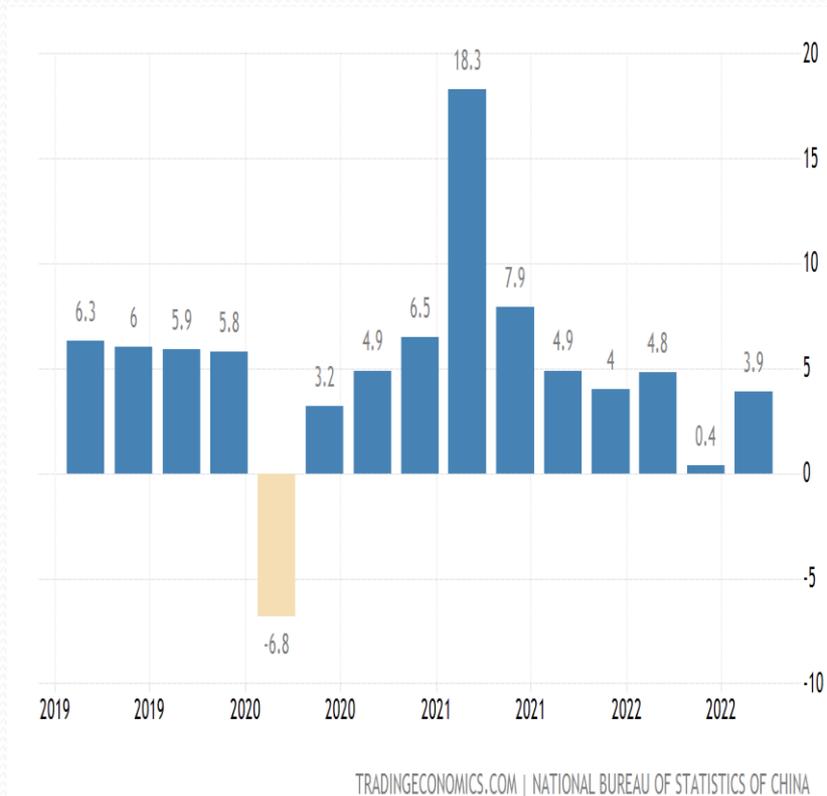
蔡 奇 (66)
北京市党委書記
序列⑤ 習主席と近い

丁薛祥 (60)
党中央弁公庁主任
序列⑥ 習主席の“最側近”

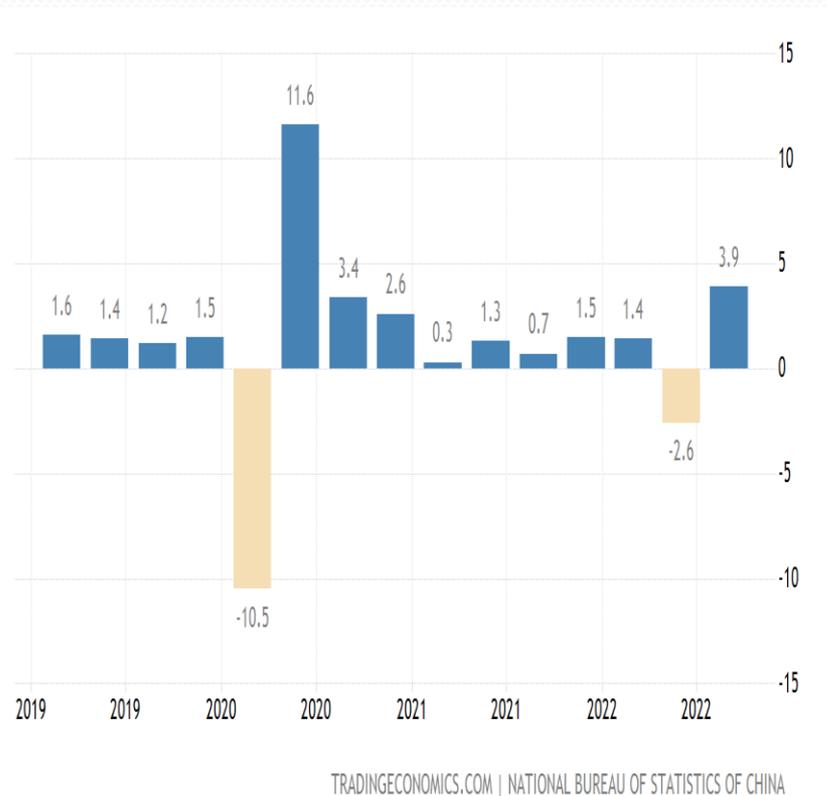
李 希 (66)
広東省党委書記
序列⑦ 習主席と近い

2. 中国の7~9月期GDPは都市封鎖解除で回復

①前年比は+3.9%に回復



②前期比は+3.9%に回復

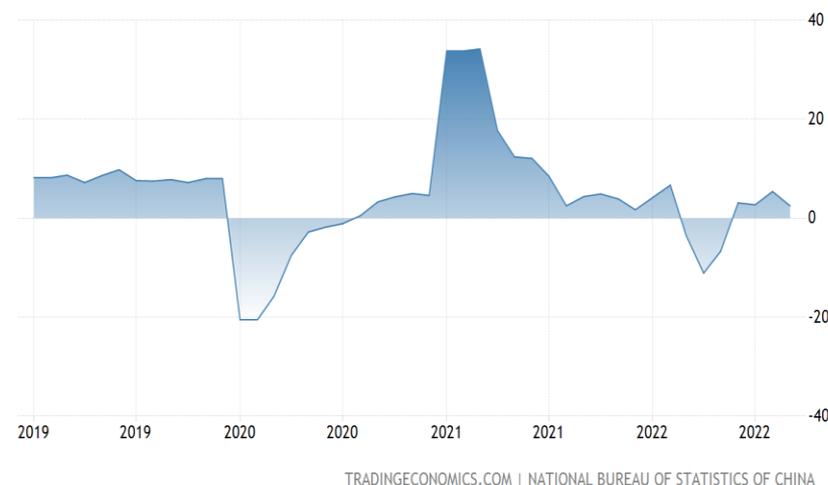


3. 中国の個人消費はコロナ制約解除で改善

①9月の小売上高の前年比(右下図)は+2.5%。前月比(右上図)は+0.43%。

②商品別の前年比は以下の通り

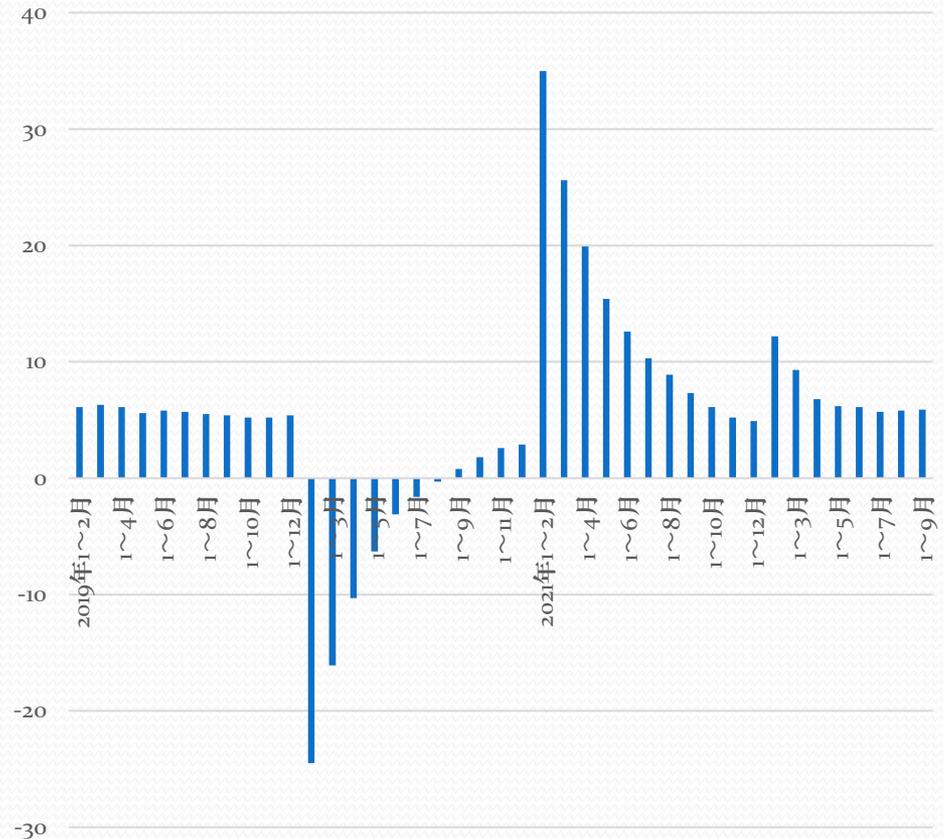
	7月	8月	9月
通信機材	+4.9% → ▲4.6% → +5.8%		
自動車	+9.7% → +15.9% → +14.2%		
建設資材	▲7.8% → ▲9.1% → ▲8.1%		
家具	▲6.3% → ▲8.1% → ▲7.3%		
家庭電器	+7.1% → +3.4% → ▲6.1%		
宝飾品	+22.1% → +7.2% → +1.9%		
化粧品	+0.7% → ▲6.4% → ▲3.1%		
石油製品	+14.2% → +17.1% → +10.2%		
衣類	▲5.6% → +5.1% → ▲0.5%		
事務用品	+11.5% → +6.2% → +8.7%		
医薬品	+7.8% → +9.1% → +9.3%		
日用品	+0.7% → +3.6% → +5.6%		
合計	+2.7% → +5.4% → +2.5%		



4. 中国の固定資産投資は公共投資主導

- ①1～9月累計の固定資産投資は前年比+5.9%(右図)。
- ②民間投資は+2.0%、公共投資の伸びは+10.6%。
- ③鉱業は+8.2%。製造業+10.1%、うち食品製造+14.4%、紡績業+6.3%、化学+19.3%、医薬+6.9%、非鉄金属+13.9%、金属製品+12.6%、自動車製造+12.7%、鉄道・船舶・航空+6.0%、電気機械+39.5%、コンピュータ・通信+19.9%、電力・ガス・水道+17.8%、鉄道運輸は▲3.1%、道路運輸は+2.5%、水利環境公共施設+12.8%。

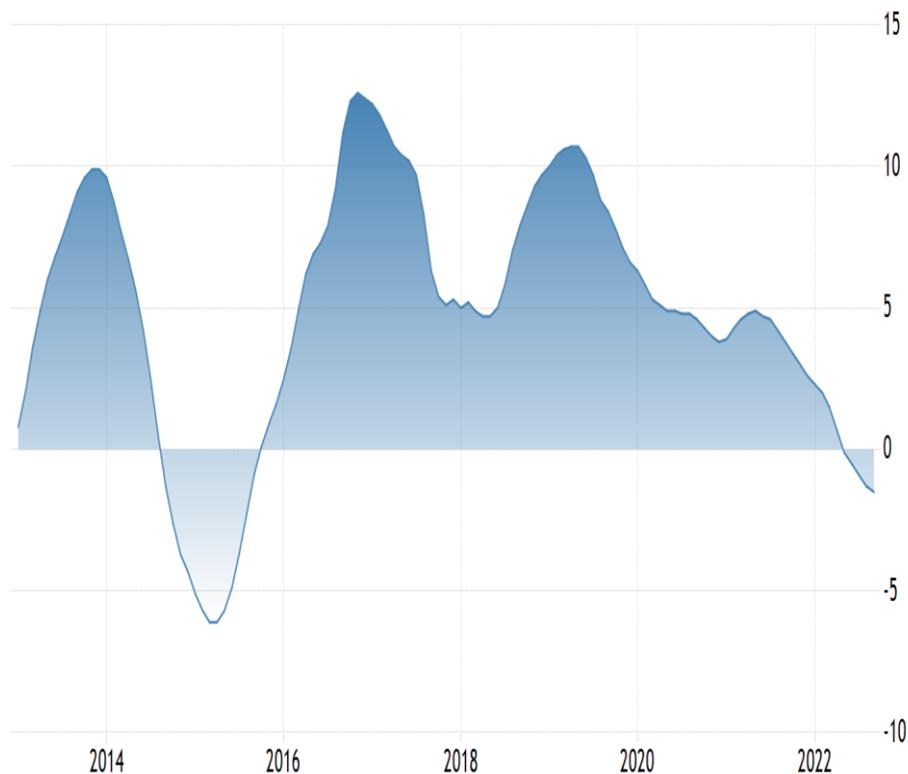
中国の固定資産投資(前年比、%)



5. 中国の住宅価格は前年比マイナスが続く

①9月の70都市新築住宅価格の伸びは前月の伸びより▲0.2ポイント低下して前年比(右図)は▲1.5%と、5ヶ月連続で前年比マイナス。前月比は▲0.2%。投機抑制を目的とした引き締め政策が影響。前月比で上昇した都市が15都市、下落したのは54都市、横ばいは1都市。

②都市別の住宅価格前年比は
北京+6.1%、大連▲3.7%
長春▲2.3%、上海+3.8%
南京+0.3%、武漢▲6.1%
広州+0.1%、深圳+0.9%
成都+6.2%、西安+2.5%

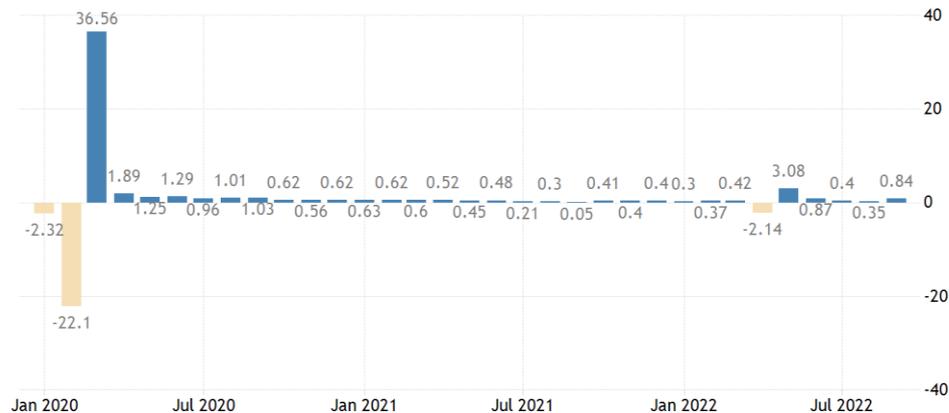


7. 中国の鋳工業生産は緩やかな伸び続く

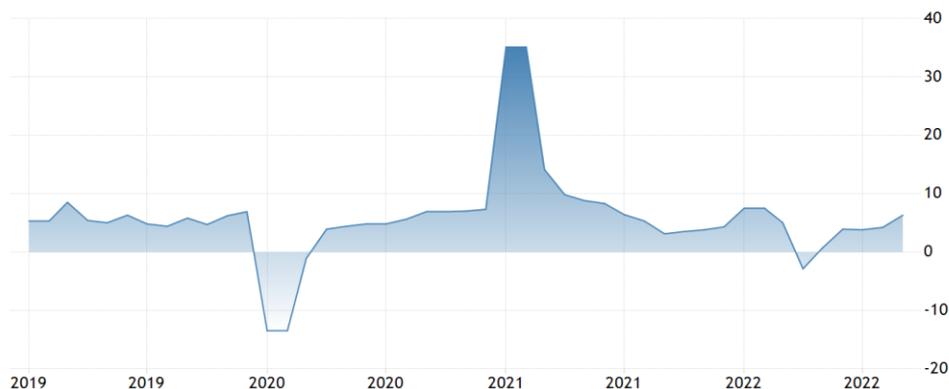
①9月の鋳工業生産の前年比(右下図)は+6.3%の伸び。前月比(右上図)は0.84%。

②製造業の前年比は+6.4%。電気・ガス・水道は+2.9%、鋳業は+7.2%。

③食品製造は前年比+2.7%、紡績▲1.6%、化学+12.1%、医薬製造▲7.5%、非金属鋳物製品+0.8%、鉄鋼+10.6%、非鉄金属+7.8%、金属製品+1.3%、自動車+23.7%、鉄道・船舶・航空機+7.6%、電気機械+15.8%、コンピュータ・通信+10.6%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

8. 中国の9月の失業率は再び反転上昇

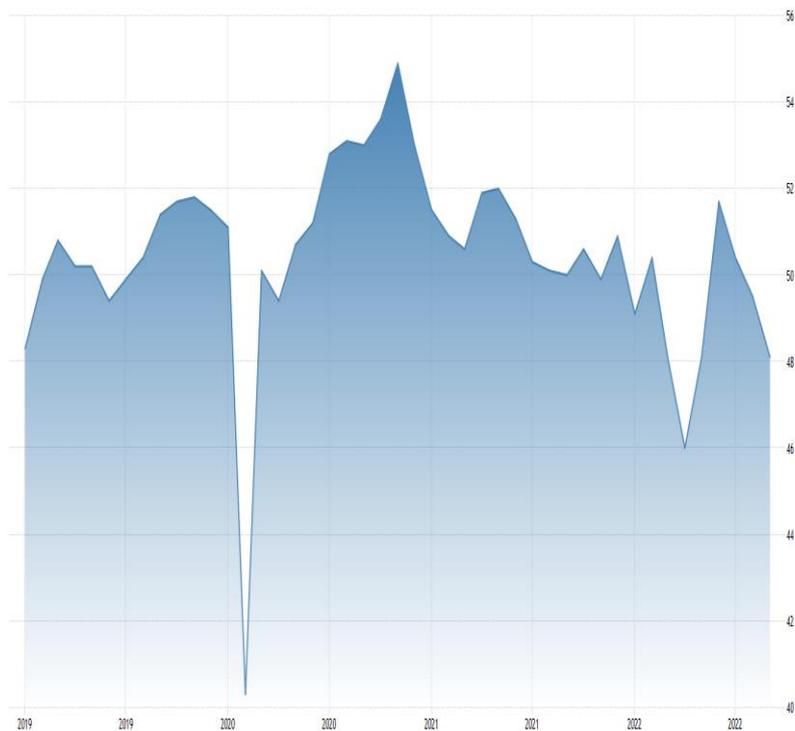
9月の全国都市失業率(農民工は統計に含まれず)は前月より+0.2ポイント上昇して5.5%と政府目標と同じ数値。



9. 中国のPMI指数は製造業、サービス業も50割れ

①9月製造業PMIは48.1と前月より
▲1.4ポイントの低下で連続50割れ。

②9月サービス業PMIは49.3と前月より
▲5.7ポイントの低下。



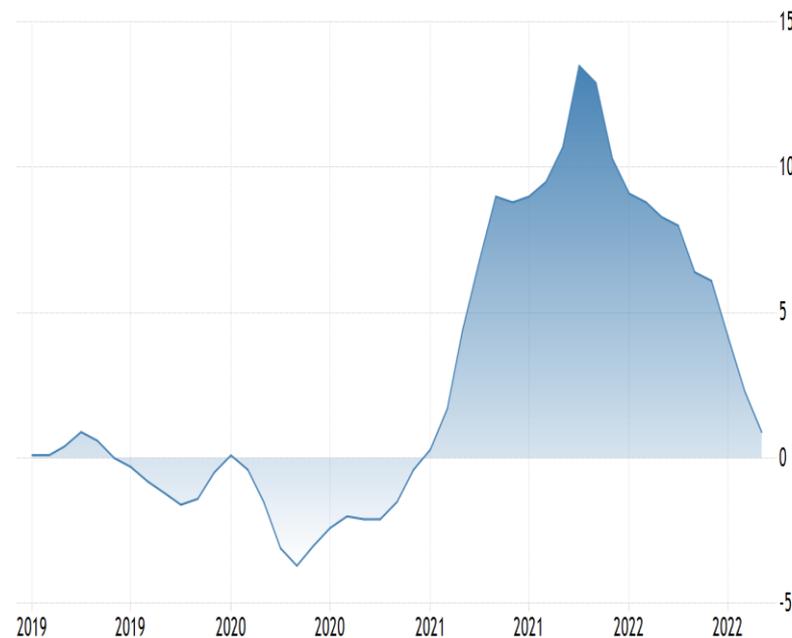
10. 中国の生産者物価の伸びはほぼゼロ

①9月の消費者物価の前年比(左図)は+2.8%と前月より+0.3ポイント上昇。豚肉など食料品価格の加速が寄与。前月比は+0.3%。

②9月の生産者物価の前年比(右図)は+0.9%と前月の伸びを▲1.4ポイント下回る。前月比は▲0.1%。コロナによる行動制限が影響。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



IV 日本經濟

1. 日銀短観の大企業製造業の景況感は3期連続悪化

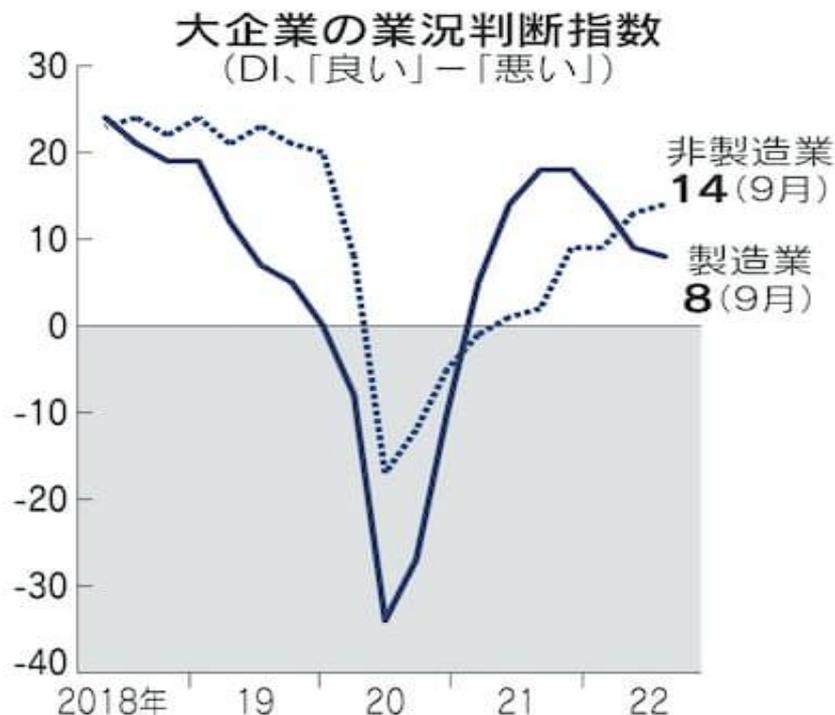
①日銀短観(9月調査)によれば大企業製造業の業況判断DI(「良い」-「悪い」、%ポイント)は前回6月調査より▲1ポイント悪化して+8。先行き12月予想は+9と+1ポイントの上昇を見込んでいる。大企業非製造業は+1ポイント上昇して+14。先行きは▲3ポイント低下の+11を予想。

②中堅企業DIは製造業0(6月比0の横ばい)、非製造業+7(+1)、中小企業は製造業▲4(0)、非製造業+2(+3)。先行きは中堅製造業が▲4、中堅非製造業が+2、中小製造業が▲5、中小非製造業が▲3と全て9月より悪化を予想。

③経常利益の22年度計画は前年度比で大企業は製造業▲1.1%、**非製造業+10.3%**、全産業+3.8%。中堅企業は製造業▲3.6%、非製造業+1.6%、全産業▲0.4%。中小企業は製造業▲11.8%、非製造業▲6.4%、全産業▲7.9%。全規模合計で製造業▲2.5%、**非製造業+4.6%**、全産業+1.1%を予想。

④生産・営業用設備判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は大企業製造業0、大企業非製造業▲1。設備投資計画は22年度で大企業製造業+22.0%、大企業非製造業+21.2%。

⑤雇用人員判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は6月、9月、12月予想で大企製造業は▲10→▲11→▲14、大企業非製造業▲22→▲26→▲26と人員不足が続く予想。



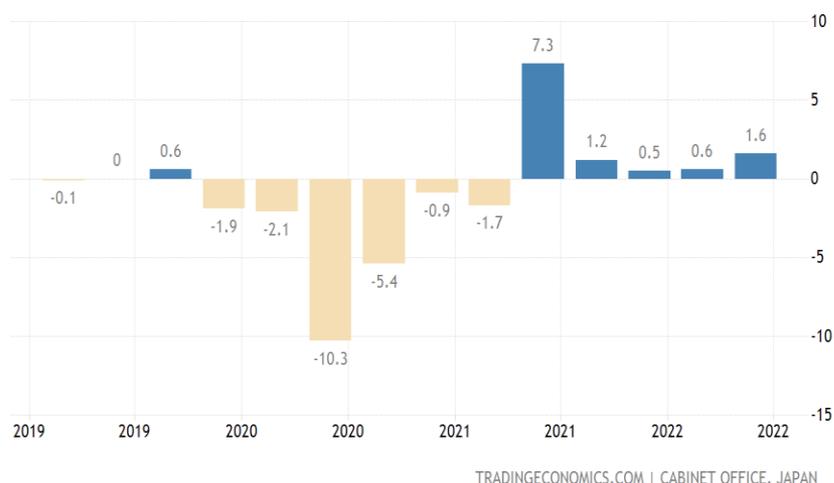
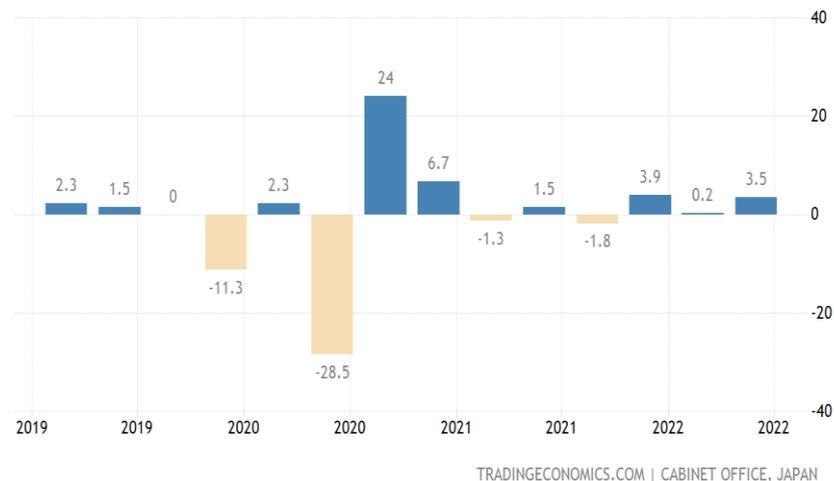
2. 政府・日銀は10月も為替市場介入を実施

政府・日銀が9月22日に24年ぶりのドル売り・円買いの為替市場介入(146円接近のタイミング、介入規模は2兆8,382億円)に踏み切った後も円安傾向に変化なく、10月21日にNY市場で151円後半で再び市場介入に踏み切り、一気に144円までドル円は戻した。しかし、補完的な国内政策(特に金融政策)の調整なき為替介入は効果が見込めない、というのが1983年「為替市場介入に関する作業部会報告書」の論点であり、介入で円安トレンドを反転させるのは難しい。



3. 4～6月期のGDPはまん延防止措置解除でプラス成長

- ①4～6月期の実質GDP(2次速報値)は前期比+0.9%、前期比年率+3.5%(右上図)のプラス成長。まん延防止等重点措置の解除による個人消費の回復が要因。内需の寄与度は+0.8%、外需+0.1%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+1.6%。
- ②名目GDPは前期比+0.6%、前期比年率+2.5%、前年比は+1.2%。GDPデフレーターは前期比▲0.2%、前年比は▲0.3%。
- ③需要項目別で民間最終消費支出は前期比+1.2%(年率+4.8%)、寄与度は0.6%。民間企業設備は前期比+2.0%(年率+8.3%)、寄与度は+0.3%。民間住宅は前期比▲1.9%(年率▲7.3%)、寄与度▲0.1%。民間在庫変動の寄与度▲0.3%。
- ④政府最終消費は前期比+0.7%(年率+2.8%)、公的固定資本形成は前期比+1.0%(年率+3.9%)で、政府支出合計の寄与度は+0.2%。
- ⑤輸出は前期比+0.9%(年率+3.7%)、寄与度は+0.2%、輸入は前期比+0.6%(年率+2.2%)、寄与度は▲0.1%。



4. 景気動向指数(先行)は高水準横ばい続く

- ①8月の先行指数(右図)は100.9で、前月比+2.0ポイントと4ヶ月ぶりの上昇。
- ②一致指数は101.7で前月比+1.6ポイントと3ヶ月連続の上昇。
- ③遅行指数は100.5で前月比+3.1ポイントの上昇。
- ④内閣府の基調判断(一致指数)は「改善を示している」に据え置き。

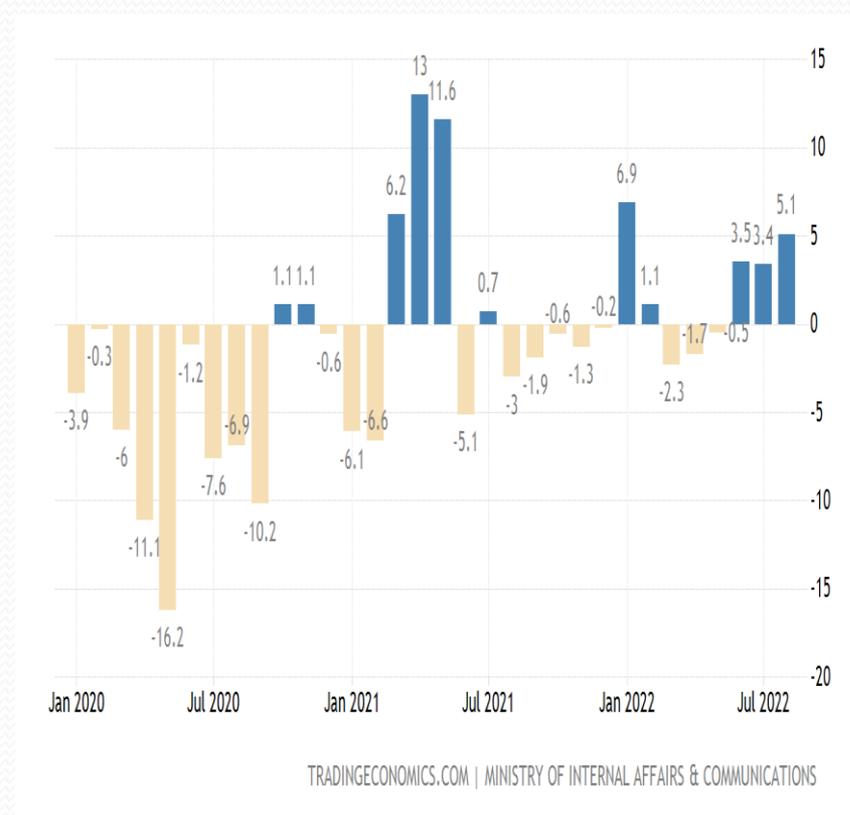
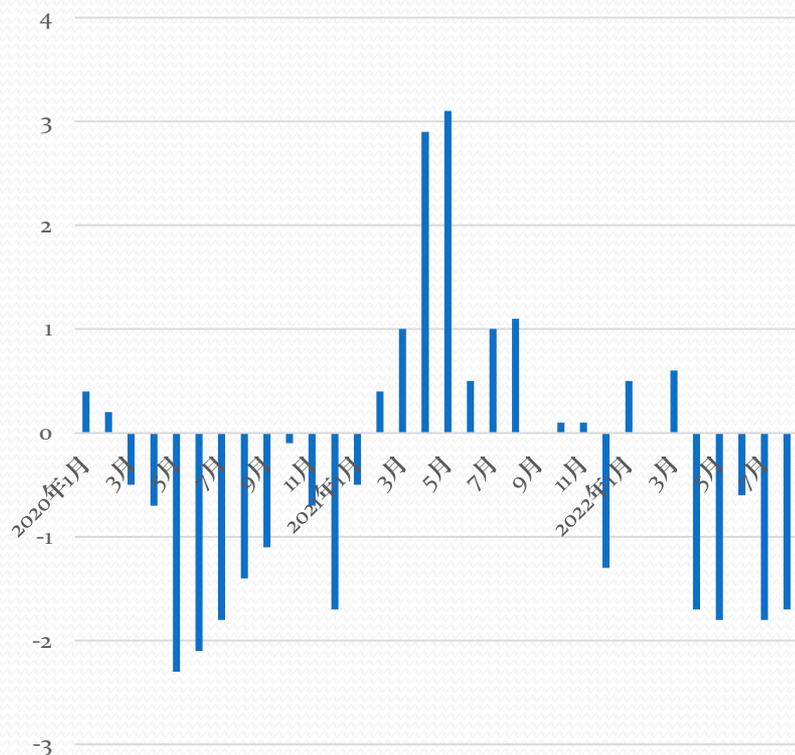


5. 実質賃金減少、実質消費増加のねじれ現象

(1) 8月の現金給与総額の前年比+1.7%、所定内給与は+1.6%、所定外給与+4.3%、特別給与+0.7%。実質賃金の伸び(下図)は▲1.7%。

(2) 8月の家計消費は行動制限解除で前年比で名目+8.8%、実質は+5.1%(下図)。実質寄与度は外食+1.22%、宿泊料+0.96%、国内パック旅行費+0.59%、鉄道運賃+0.27%、有料道路料+0.14%。

日本の実質賃金の伸び(前年比、%)



6. 機械受注(船舶・電力除く民需)は頭打ち

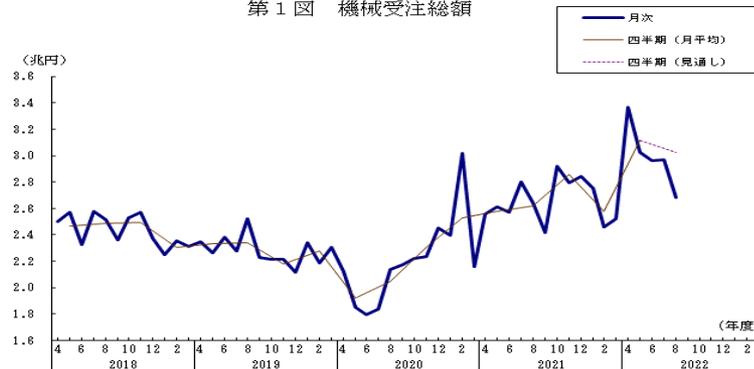
①民間設備投資の先行指標である8月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比は▲5.8%。前年比+9.7%。

②製造業受注は前月比+10.2%、前年比は+30.1%。前月比で17業種中、非鉄金属、化学工業など8業種が増加。パルプ・紙・紙加工品、繊維工業など9業種が減少。

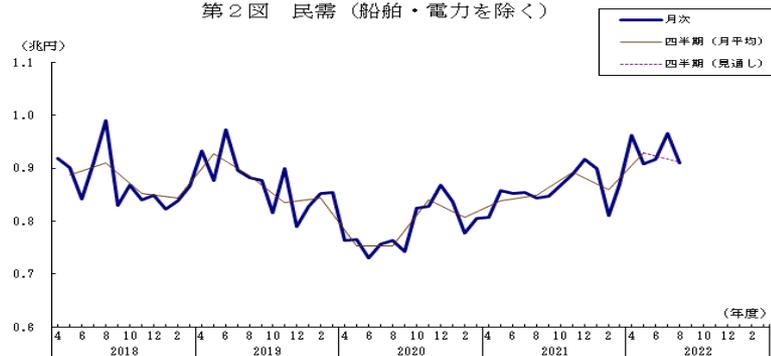
③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比▲21.4%、前年比▲8.2%。前月比で12業種中、増加したのは電力業、卸売業・小売業など6業種で、運輸業・郵便業、不動産業など6業種が減少。

④内閣府の基調判断は「持ち直しの動きが見られる」に据え置き。

第1図 機械受注総額



第2図 民需(船舶・電力を除く)



(備考)

1. 四半期(月平均)は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示(例えば7~9月の月平均値は8月の位置に表示)。

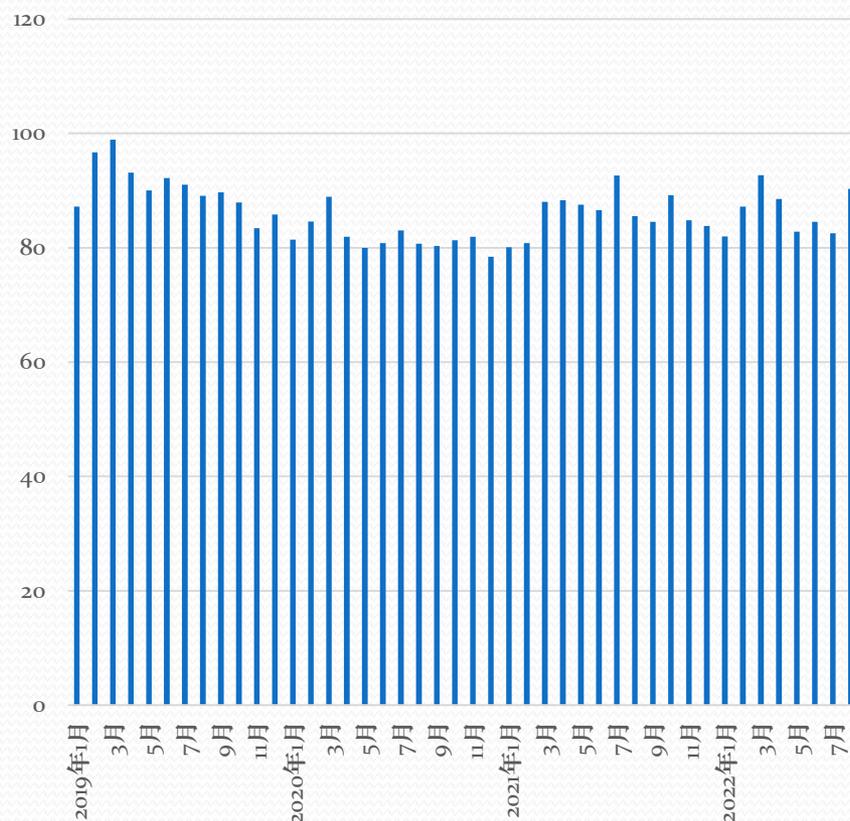
2. 「2022年7~9月(見通し)」の計数は、「見通し調査(2022年6月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。

7. 住宅着工戸数は年率90万戸に戻す

①8月の住宅着工戸数は77,712戸で前年比は+4.6%と4ヶ月ぶりの増加。季調済年率で90.3万戸(右図)、前月比は+9.4%の増加。

②持家は22,291戸、前年比は▲11.2%と9ヶ月連続の減少。貸家は31,295戸、前年比は+8.9%と18ヶ月連続の増加。分譲住宅は23,172戸、前年比は▲4.0%。分譲マンションは10,727戸、前年比は+34.6%。分譲一戸建て住宅は12,341戸、前年比は+4.7%で16ヶ月連続の増加

日本の新設住宅着工戸数(季調済、万戸)

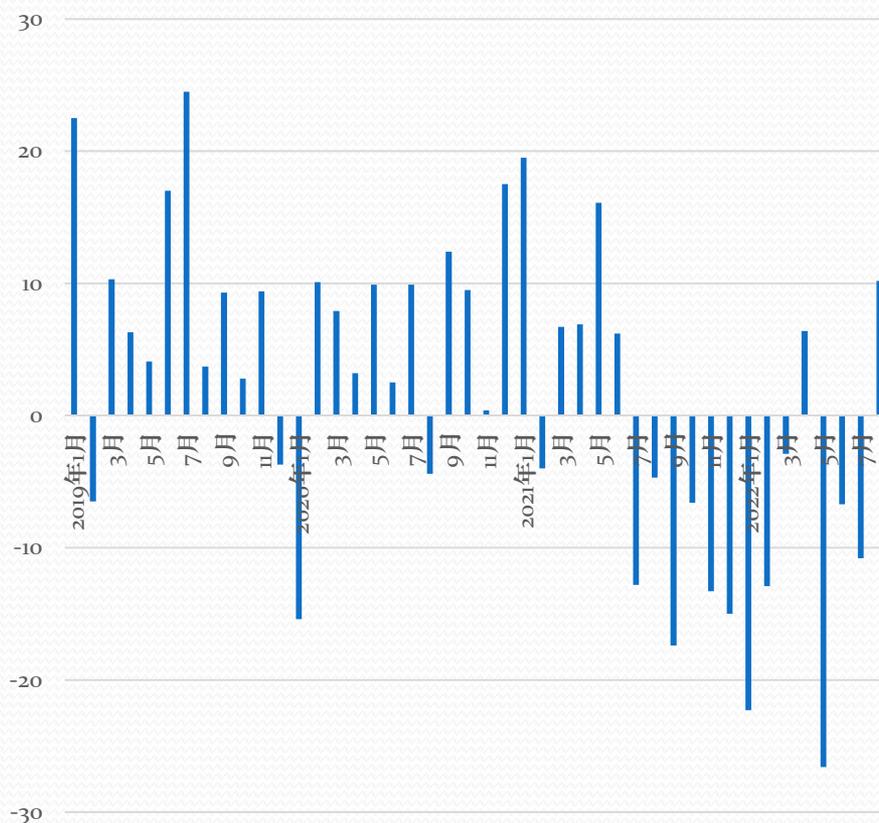


8. 公共工事受注は3ヶ月ぶりに増加

①8月の公共工事受注は前年比+10.2%と4ヶ月ぶりに増加。(注:推計方法の変更により、データは21年3月までと21年4月以降とは連続性がない)

②工事分類別では土木工事は+25.1%、建築工事・建築設備工事▲7.1%、機械装置等工事▲27.4%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



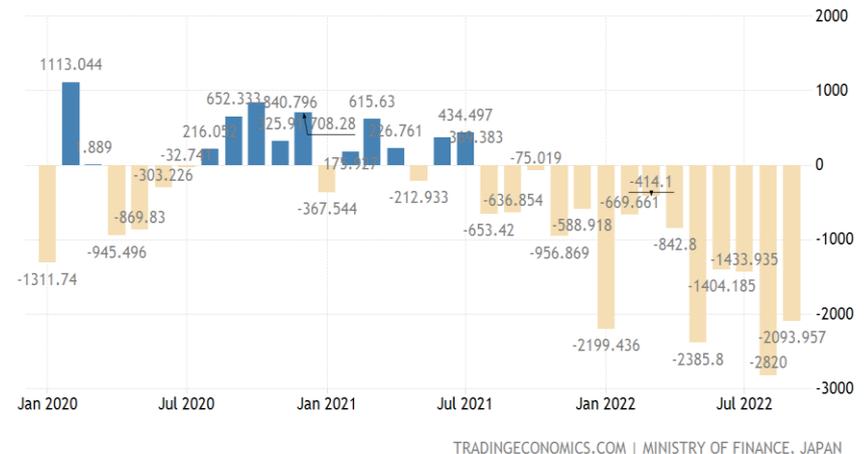
9. 資源価格高騰で貿易赤字の拡大続く

①9月の貿易収支は前年比▲1兆4,571億円悪化して▲2兆940億円(右上図)の赤字に拡大。輸出は前年比+28.9%、金額は8兆8,187億円。数量(右下図)前年比は+3.7%、価格前年比+24.3%。輸入は前年比+45.9%、金額は10兆9,126億円。数量の前年比▲1.8%、価格の前年比+48.6%

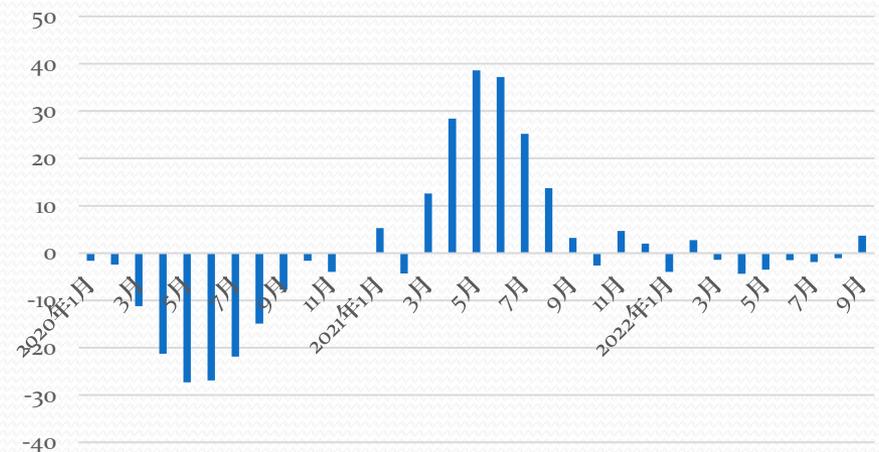
②地域別輸出でアジア向けは+20.6%(うち中国+17.1%、韓国+21.7%、シンガポール+40.9%)、米国+45.2%、西欧+32.1%、中東+98.4%

③商品別輸出は自動車+122.2%、半導体等製造装置+30.6%、半導体等電子部品+20.5%、音響・映像機器+114.1%、建設用・鉱山用機械+66.2%。

④商品別輸入は鉱物性燃料+118.3%(うち原油及び粗油+100.8%、石油製品+42.7%、LNG+164.2%、石炭+168.7%)、半導体等電子部品+39.1%、衣類・同付属品+39.9%、医薬品+31.6%。

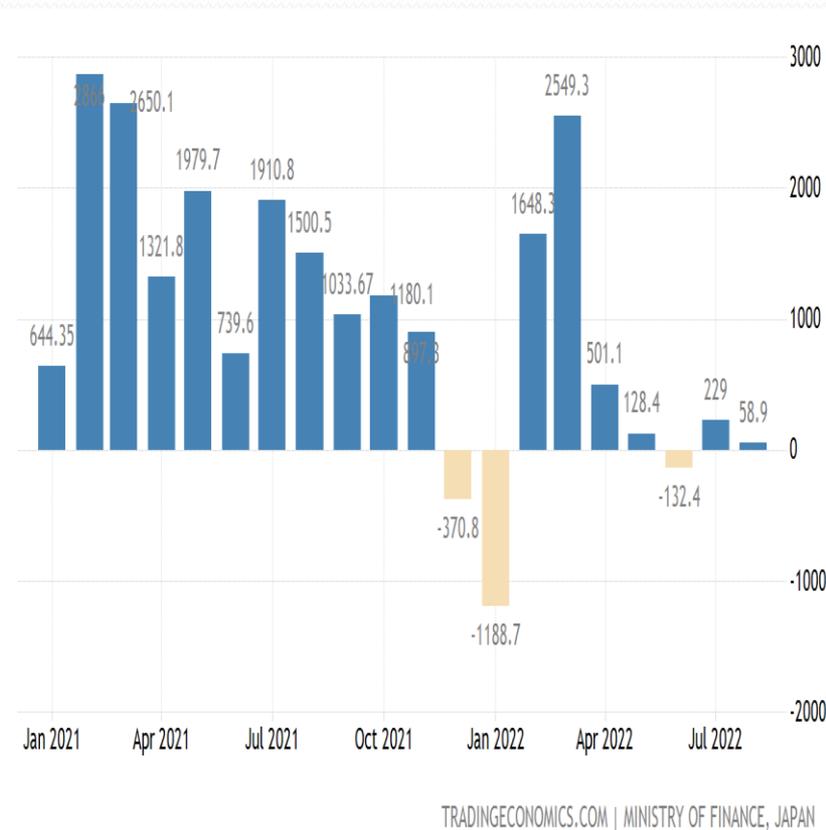


日本の輸出数量の伸び(前年比、%)



10. 貿易収支の赤字拡大で経常黒字は大幅縮小

- ①8月の経常収支(右図)は前年比▲1兆4,416億円悪化して、+589億円の黒字に縮小。
- ②貿易収支は前年比▲2兆1,059億円悪化して▲2兆4,906億円の赤字に拡大。輸出は前年比+23.7%の8兆596億円、輸入は前年比+52.9%の10兆5,502億円。
- ③サービス収支は▲4,273億円悪化して▲6,159億円の赤字に拡大。
- ④第一次所得収支は直接投資収益の黒字幅拡大により、+1兆609億円黒字が拡大して+3兆3,271億円の黒字。第二次所得収支は+307億円改善して▲1,617億円の赤字に縮小。



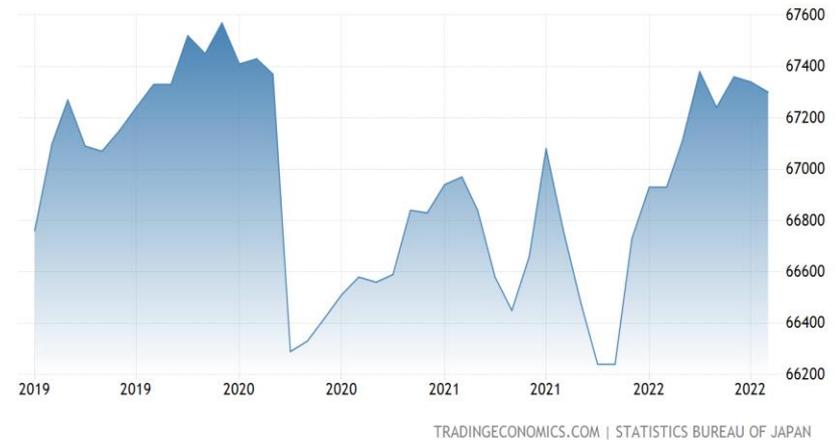
11. 日本の雇用状況は緩やかな回復続く

①8月の就業者数は原系列で6,751万人、前年比+12万人。季調済(右上図)は6,730万人で前月比▲4万人の減少。原系列で雇用者数は6,044万人で前年比+30万人の増加。正規は3,589万人、前年比▲25万人、非正規は2,121万人で前年比+50万人。自営業主・家族従業者は672万人で前年比▲23万人。

②産業別就業者の前年比では宿泊業・飲食サービス業+21万人、情報通信業+18万人、運輸業+16万人などが上昇。卸売業・小売業▲23万人、建設業▲15万人、学術研究・専門技術サービス業▲13万人などが減少

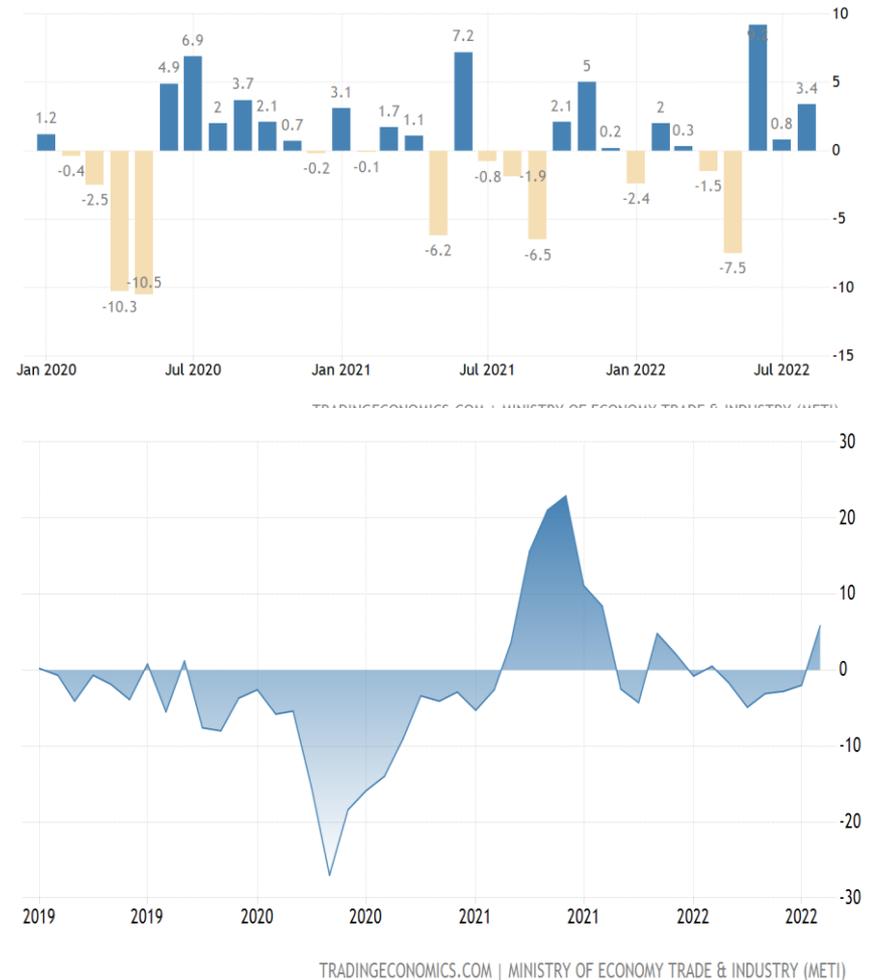
③完全失業者数177万人で前年比▲17万人。完全失業率は2.5%と前月より▲0.1ポイント低下。

④有効求人倍率(右下図)は1.32倍で前月比+0.03ポイント上昇。



12. 日本の鉱工業生産は緩やかな持ち直し

- ①8月の鉱工業生産指数(確報)は100.2で、前月比(右上図)は+3.4%と3ヶ月連続のプラス。前年比は+5.8% (右下図)と6ヶ月ぶりの上昇。
- ②業種別前月比では生産用機械工業+6.2%、鉄鋼・非鉄金属工業+3.6%、化学工業(除く無機・有機化学工業)+9.3%などが上昇。電子部品・デバイス工業▲6.4%、自動車工業▲1.3%、無機有機化学工業▲1.6%などが低下
- ③業種別前年比で生産用機械工業+21.2%、輸送機械工業(除く自動車工業)+18.5%、自動車工業+15.8%、石油・石炭製品工業+11.1%、電気・情報通信機械工業+9.5%などが上昇。電子部品・デバイス工業▲8.6%、窯業・土石製品工業▲5.9%、無機・有機化学工業▲5.2%、鉄鋼・非鉄金属工業▲4.6%などが低下。
- ④9月の製造工業生産予測指数は前月比+2.9%の上昇、10月は+3.2%の上昇を予想。
- ⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比+4.2%、前年比+17.8%。
- ⑥経産省の基調判断は前月の「生産は一進一退」から「生産は緩やかな持ち直しの動き」に上方修正。



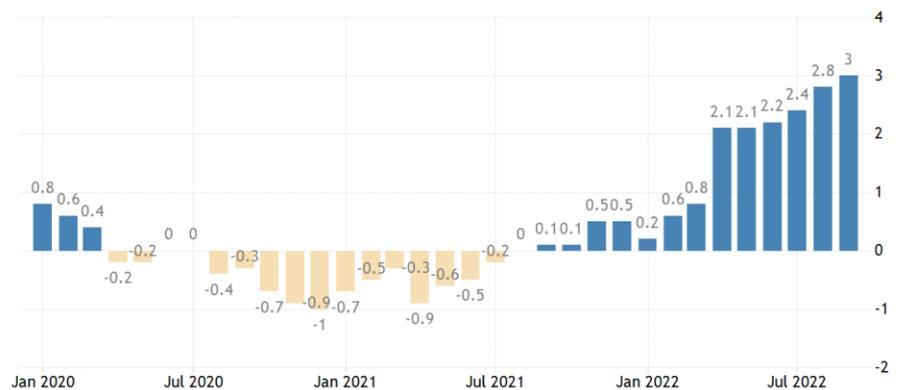
13. CPIはエネルギーと食料価格上昇が寄与

①9月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右上図)は+3.0%と前月より+0.2ポイント伸びが高まる。前月比は+0.4%。

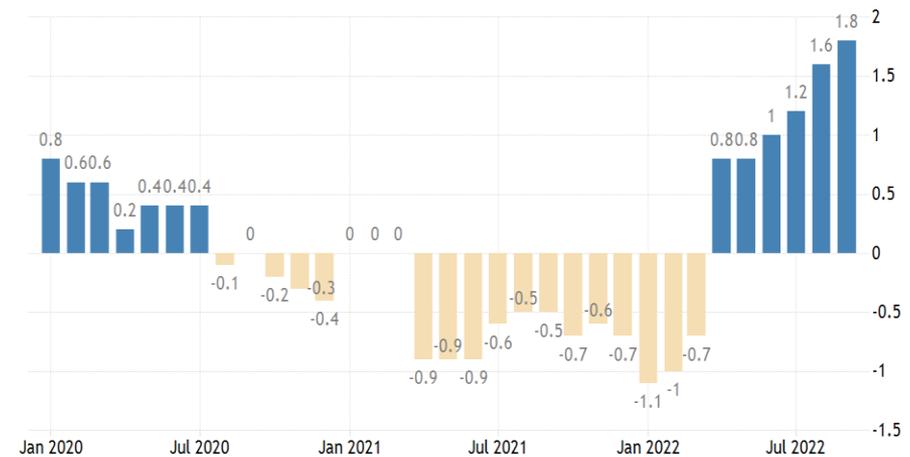
②生鮮食品及びエネルギーを除く総合(コアコア)の前年比(右下図)は+1.8%で前月より+0.2ポイント伸びが高まる。前月比は+0.3%。

③消費者物価総合の前年比は+3.0%と前月と変わらず。前月比は+0.3%。エネルギーの前年比は+16.9%、寄与度は+1.28%。食料の前年比は+4.2%で寄与度は+1.10%。

④項目別前年比で上昇したのは食用油+37.6%、食パン+14.6%、さけ+26.8%、ハンバーガー(外食)+11.2%、豚肉(国産品)+5.9%、都市ガス代+25.5%、電気代+21.5%、ガソリン+7.0%、灯油+18.4%。下落したのは通信料(携帯)▲14.4%。



TRADINGECONOMICS.COM | STATISTICS BUREAU OF JAPAN



TRADINGECONOMICS.COM | STATISTICS BUREAU OF JAPAN

V マーケット動向

1. ドル円は151円後半で再びドル売り介入



2. ユーロは対ドルで底ばいの動き



3. 人民元は1ドル=7人民元超えの元安続く



4. NYダウはFed政策楽観論で3万ドル台を回復



5. 日経平均はNYダウに連れてやや戻す



6. 独株価 (DAX) は一旦底入れ



7. 上海株価は下降トレンドが続く



8. 米長期金利は急上昇し4%を超える



9. 日本の長期金利は指値オペで日銀が防衛



10. 独長期金利はECB利上げで2.5%をつける



11. 中国の長期金利は再び下降の動き



12. 原油価格 (WTI) はOPEC減産でも上昇は一時的



13. 金価格は金利上昇で下降トレンド





完